JULY 24, 1920. NO. 7434
The Japanese American News
大正九年七月廿四日（土）　第七千四百三十四號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 238
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY......ONE YEAR...... $11.00
DAILY......SIX MONTHS...... 5.50
DAILY......ONE MONTH...... 1.00
SINGLE COPIES.......... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

一轉化・日本人問題・

日本人問題の將に一轉化を來さんとしつゝある事は、最近數ヶ月來吾人の繰返し述べ置きたる處なるが、日を經るに從て、此傾向は愈々顯著となり來たるを見る。西部米國一帶の排日運動は大戰の終結と共に、反動的に盛返し來り、最近其頂點に達したるも、米國が支那方面に其市場を開拓せんが爲めには、日本を度外視して到底滿足に豫期の效果を收め難きを痛切に感ずると共に、日本も亦在米日本人の問題を圓滿に解決せんことを切望せる結果として、雙方の意志希望の上に多大の一致點を見出し、相共に問題の解決に協力するに至りたり。而して之を米國內の實際狀態より見れば、米國は新たに日本人の入國し來るには反對するも、既に米國內に在る日本人に對しては、能ふ限り保護と指導とを加へて、米國に同化せしめ、問題の根源を斷たんとするに傾き來り、此結果の一として今回の下院移民委員團の實地調査も行はるゝに至つたものなり。今回の此調査の結果は、歸する處新たに日本人の潮來することを防止されたしといふが、多數加州民の希望にて、在住の日本人を迫害せんとの主張は、僅かに少數の排日一派の主張し居るに過ぎざること、極めて明白に委員團の頭腦に印象せられたる如し。左らば形式に於て多少の變化あるとも實質に於ては現狀維持、或は多少の改善を伴ふ新方針の樹立により、問題は一轉化を來すことゝなるならん。吾人は此豫想の下に在留民が決して前途を悲觀せず、動搖せず、其居住狀態を改善しつゝ其業務に精勵せんことを繰返し望まざるを得ず。一般の加州在留同胞は、誤りたる報道誇大の警告等の爲めに可なりに現狀を悲觀し居るが如きも、吾人は悲觀すべき何等の理由をも發見せざるものなり。例へば排日法案の一般投票の如きも、署名を取り始むれば瞬く間に五萬や九萬の署名は得らるべしと、事情を知りてか知らずしてか、アラーミストは盛んに揚言したれども、果して然か易々として規定數の署名は集め得たりしや排日派は七月十五日を期して規定よりも遙かに多き署名數を集めんとの豫想を以て取りかゝりたれど、一向に成績擧らず、南加方面は比較的多く集まりたれど北加一帶は頗る振はず、七月十五日には猶夥しき不足を生じたり。殊に此署名は登錄したる有權者に非ざれば無效なる爲め今日まで集め得たる署名の中にも少なからざる無效者あるにより、排日一派は爾來血眼になつて署名を取り始めたり。彼等は婦人運動者を街頭に立たしめ、往來の人を捕へて署名を求め、或は戶別訪問を爲さしめ哀願する等死物狂ひの活動をなし居れど、一般公衆は寧ろ冷然として多く顧みざる有樣なり。投票日より九十日前までに請願書は差出せば可なるものなるが故に、尚期日は一週間を剩すべく、此一週間內に彼等が何程集め得るか豫想し難ければ、今の處何とも言ふ能はず、一髮千鈞を繫ぐに類し居るも、多數の消息通は集め得ざるべしと觀測し居れり形勢右の如くなるが故に、萬々一規定數だけ集りて一般投票請願成立すとも、十一月の投票に多數を制し得べきや更に大なる疑問なり。次の州會如何を取越し苦勞を爲し居るものあるも、一般投票に失敗したるものを通常州會に出すといふが如き非常識なる政治家乃至其成立を豫想する方の愚なり。日本人問題は斯くて將に一轉化を見んとす。憂ふることを休めて精進努力せよ。

無競爭の獨舞臺

下院議員第四選擧區のジューリヤス・カーン、第五選擧區のジョン・ノーラン兩氏は共和、民主兩黨より推されて獨舞臺なり。無競爭にて當選する兩氏の地盤も亦確かなりといふべし。

上院議員の選擧

加州選出上院議員一名の改選今秋十一月擧行さるゝに對し、民主黨フイラン氏再選登錄を爲し共和黨よりはショートリッジ、ケント、ワレース三名名乘を上げたり。此中最も優勢なるものはショートリッジ氏にて、共和黨は豫選にて氏に最高點を與へ本選擧にてフイラン氏を蹴落すべし。加州に於けるショートリッジ氏の地盤は堅固なり。

本社東京特電（七月廿三日午後一時着電）

尼港事件上奏延期
△憲政會眞相を闕下に上奏案

憲政會は尼港に於ける過激派露國軍の邦人虐殺事件の眞相を闕下に上奏せんと黨議一決せるも都合により延期されたり

富士瓦斯紡績罷業の解決

富士瓦斯紡績會社職工は賃銀値上要求の同盟罷業を斷行せるに會社側は右要求を容れ罷業は圓滿に解決されたり

奈良縣補缺新代議士決定

奈良縣第二區選出代議士森岡京次郎氏自殺し缺員を生じ補缺選擧の結果福井甚三氏（政友、新）當選せり

憲國兩黨鐵道大臣不信任

憲政、國民兩黨協同して元田鐵道大臣不信任案を提出すべし

極東關係電報（七月廿三日聯合通信）

日本婦人解放運動

日本男子の普通選擧運動に依つて覺醒せる日本婦人は婦人の政治的解放を實現すべき運動を開始せり右の解放運動の最初の運動は新婦人會が婦人の政談演說會出席禁止法の撤廢請願書を議會に提出せることなり新婦人會の幹部は曰く右の禁止法は近代思潮に反するものなるを以て速かに廢止されざるべからず右の議會請願は一般的婦人權利擴張運動の第一步なりと（東京廿日發——延着）

日本高等船員決議に反對

日本の商船乘込高等船員及び運轉士はゼノアの國際海員會議の決議中高等船員及び運轉士に關係ある決議を尊重する能はざる旨政府に通告したり右の理由に曰く日本の高等船員及び運轉士はゼノア會議に代表者を出すべく勸誘せられざりしを以てなり

日露停戰條文發表せらる

日本陸軍省は最近西比利亞出征日本軍司令部と貝加爾湖東ウエルフネウヂンスクに於ける極東露國假共和國政府との間に交換せられたる日露停戰協定條文に依れば日露交涉委員は共に民主的にして共產的ならざる聯合西比利政府を組織し其下に日露緩衝地帶を設置することを希望すとのことなり（以上東京發）

米の排日と國際聯盟

英國統一黨の下院議員フレデリック・ホール卿は議會に於て「米國は排日運動を行ひつゝある模樣なり政府は米國の排日運動を重大視せざるや政府は英國が日米問題に干涉し之れが解決を國際聯盟に委任するの必要ある程に日米問題の形勢險惡なりと觀測しつゝあるや否や」との質問を試みたり之れに對して首相ロイド・ヂョーヂ氏は『余は日米問題の形勢が斯の如く險惡なるや否やを未だ聞知せず』と答辯せり（倫敦發）

支那總統新內閣組織計畫

支那大總統徐世昌は參謀本部長段祺瑞の辭任を承諾し直隸邊境守備軍を廢止するの計畫を有す大總統は更に前參謀本部長王士珍をして安派を排外せる新內閣を組織せしむべしとの說あり

▲直隸派軍故意に入城せず

安福派軍は根據地に復歸し又は山地に逃亡しつゝあるを以て直隸省督軍曹琨及び直隸省保定府鎭臺軍司令官吳佩孚の麾下の直隸派軍は任意に北京を占領し得べきも內閣員及び北京の列强外交官團が北京の秩序維持の爲め前進を中止せられたしと抗議せるを以て北京占領を實行せず實狀を維持しつゝあり因に直隸派軍に假泊しつゝあり（北京發）

歐洲新情勢電報（七月廿三日聯合通信）

波蘭對露休戰提議

露國過激派軍の侵略を受けつゝある波蘭は聯合列强を通じて間接に過激派に休戰を提唱せるが廿二日直接休戰を提議せり右休戰提議打電後波蘭新內閣組織せられたり首相はウイトス氏にて副首相は社會黨領袖ダゼンスキー氏なり尚ほ過激派の回答は廿三日中に到着せん（ワルソー發）

▲米國大統領に聲援を要望

波蘭政府は大統領ウイルソン氏に過激派より侵略を受けつゝある波蘭民に士氣鼓舞の爲めに聲援を乞ふと要望し來れる旨國務省より發表せられたり（華府發）

▲過激派軍波蘭にて連戰連勝

波蘭侵畧中の露國過激派軍は連戰連勝しつゝあり波蘭は首府ワルソーを放棄すべく準備中なり（ワソー發）

獨露同盟有望風說

波蘭侵略中の露國過激派軍の一部は東部普魯士に接近しつゝあり東部普魯士の過激派は露國過激派と內通しつゝあり斯の如き情勢に對して獨逸は（一）露國過激派と戰鬪すると（二）之れと同盟することの二つの方法中何れかを取らざるべからず然るに聯合列强は獨逸國防軍人員を制限しつゝあり故に獨逸は露國と同盟して聯合列强を牽制するやも知れず（伯林發）

聯合列强の波蘭援助困難

聯合列强は波蘭に對して軍事的援助を與ふることとなるべきも露國過激派軍頗る優勢なるに對して聯合列强の出兵地理上困難なるを以て波蘭は全敗せん（巴里發）

勞働關係電報（七月廿三日聯合通信）

鐵道總罷業を回避

鐵道局の勞働賃金增加判定を接手せる鐵道諸勞働組合中十五の判定を一先づ承認することに決したり但し右十五種鐵道勞働組合は更に鐵道局に賃金引上げの要求を試むる筈なり諸鐵道勞働組合中電信技師組合のみは組合員の一般投票にてストライキを爲すべきやを決する筈なり形勢斯の如きを以て當分全國鐵道の總同盟罷業は行はれざらん（市俄古發）

鐵道乘車賃運送賃引上額

米國諸鐵道會社は鐵道局が鐵道勞働賃金年額六億弗の增加を許可せるに對して乘客賃二割增加プルマン代五割增加東部貨物運送賃一割西部八分增加の承認を州際商業委員會に申請せるは昨報の如くなるが先日既に申請せる增加率に今回の增加率を加ふれば乘客賃增加年額は二億三千三百八十二萬弗、貨物運送賃增加年額は十三億六千五百卅七万弗、プルマン賃增加年額は四千三百六十三萬弗に達すべし（華府發）

ゴムパース運賃增加反對

米國勞働同盟長ゴムパース氏は曰く鐵道局の判定は鐵道勞働者に失望を與へたるが勞働者は一先づ之れを承認して更に賃金增加運動を繼續するを可とす尚は鐵道諸會社の乘客賃貨物運送賃率の引上は不當なり（華府發）

米國政戰電報（七月廿三日聯合通信）

禁酒黨大統領候補者變更

ネブラスカ州リンカーンに於ける禁酒黨全國大會に於て同黨大統領候補者に推擧せられたるブライアン氏は辭退せり故に大會は再び選擧を行ひオハヨー州チアマンタウン出身にて大學敎授なるワトキンス氏を大統領候補者に推擧せりオハヨー州は三名の大統領候補者を出すことゝなれり（リンカーン發）

コ氏候補通告式來月七日

民主黨大統領候補コックス氏の候補當選通告式は八月七日同氏の故鄕なるデートン市の附近のトレールセンドにて行はるべく同氏はハーデング氏と同樣通告式に於て候補受諾大演說を試むべく目下草稿作製中（コロンバス發）

國際聯盟愈政府の問題となる

ハーデング氏は候補受諾演說に於て國際聯盟參加に反對の旨聲明せるは既報の如くなるがコックス氏も受諾演說に於てウイルソン氏と同樣の聯盟贊成論を試むべく從つて國際聯盟は今秋政府の第一の問題となるべし（華府發）

◇進步自由と因襲傳統
——東京ＴＳ兄——北米通信（七）　陽岳生

此國には貧乏人でも立派な家具や樂器や臺所用具が比較的容易に得られまして、生活をエンジヨイすることが出來る所以の一は、主に月賦拂の制度が行屆いて居るからであります。何處の馬の骨か分らぬ人間に平氣で何でも持て來て置て行きます、必ずや持逃げをしたり掛け倒しをしたりする人間が尠い爲めでありましよう、此國は總ての人が買物や支拂に▼小切手を使用します、謂はゞ當國人の小切手が日本の紙幣の樣に通用して居るので、當國の總ての人が日本銀行の樣な信用を有するとも云はれます。斯る信用の發達によりて人民が相互に受る幸福と利益とは非常なものであります。高等な敎育を受けた者や所謂智識階級の人でさへ家賃を倒したり、米屋味噌屋、魚屋を倒す國とは大分違ひます。人間として雛である▼學生でさへ下宿屋を倒して步く者がある國とは大分違ひます。當國の圖書館は何れも無料で一片の簡單な貸出證でドシ〳〵自宅に携行を許しますが傷めたり紛失したりすることは滅多にないさうであります。私が嘗て學生の際、時の英語敎師たる英國人が或る處で一般學生に書籍の自宅携行貸出を實行したら瞬く間に大部分の本は▼行方不明となつた事柄を想起せずに居られません。當國では諸所を旅行しても滅多に樂書を見出しません、稀にあつても無邪氣なものです、日本を旅行して御覽なさい工場とか病院の便所、公共便所、塀や白壁などに下等なる樂書を夥多しく目擊するのです。尚は便所で思ひ出しましたが此國は斯樣な連想の惡い言葉を非常に愼しみますから▼男子用の處には單に男子と書てあり婦人用の處には婦人と書てありまして必ず男子とか婦人とは場所を離してあるのは善い思付だと感じます。個人の塀などに筆太に○○無用など云ふ張札を臆面もなく揭げる人間も、又彼に揭げるべく餘儀なくした人間も見受けるとは恥かしき事です。▼昔し堯舜の世には其德禽獸に及ぶと云つて形容して居りますが、確かに其國の動物によりて國民性の一端を知ることが出來ると思ひます、當國の馬などの偉大なる體軀には驚きますが其がすべて溫順猫の如き有樣なるには更に驚きます、申すまでもなく人が家畜を殘酷に取扱はないからです。犬でもそうです、人間に溫順であるばかりでなく▲犬同志で容易に喧嘩などしません、若し喧嘩をすることがあれば人が熱心に留めます然るに犬さへ見れば直ちに嗾しかけ其殺伐なる戰鬪を見て喜ぶ日本人があります、何といふ殺風景な人達でせう。其他社會の組織、富の進步等が原因をなして居る特長を擧げますなら數限りはありませんから之等は他日に讓ります。乍然勿論此國にも▲惡い點も澤山にあります。以上の如き美點は主として淸敎徒の植付けたものでありますが其後當國にはバルカン半島や伊、西、葡、露等より澤山に猶太人や舊敎の民族が來て居ります。彼等は謂はゞ日本の佛敎徒見た樣なもので、每週敎會に出入しましても、或は傳統的習慣的にか或は平生の汚れたる行が贖はれるとの迷信とか或は▼世間態とか或は附合ひ位なもので決して自ら淸淨なる思想を行ひに到達せんが爲めではありません、從つて彼等の間には可なり惡い人間も居る樣です、例の排日一派の連中も調べて見ると此仲間の產が多いです而して彼等と雖も我國民に比べて必ずしも惡德だと斷言することは出來ません。

英領土記者大會

來る十月四日より七日迄加奈陀首府オタワに大英帝國記者大會開催せらる英本國より六十名濠洲より十四名、ニュージランドより七名、南阿より六名、印度より四名其他埃及海峽植民地香港等より英字新聞記者加奈陀に參集せん（オタワ發）

洪國過激派抑留

獨逸官憲は露國へ赴かんとせる洪牙利過激派首領ベラクーン外多數の洪牙利及バヴアリアの過激主義者をステッチン港に抑留せり（伯林發）

前帝父子の對面

和蘭ウエリンゲン島に幽居中の前獨皇儲は先日自殺せる前獨帝第六王子ヨアヒムの橫死を病中の前獨皇后に知らしむべきや否やを相談すべくヅールンの前獨皇帝を訪問せりヨアヒムは來る廿四日迄に子息を同伴して前獨皇后を訪問する筈なりしを以てそれ迄にヨハヒムの消息を傳へざるべからず（和蘭ヅールン發）

海軍卿沙都到着

巡洋艦アイダホ號にてアラスカに赴きて視察せる海軍卿ダニエルス氏と內務卿ペーン氏とは沙都に到着せり（沙都發）

瑞典社會黨內閣

先日組織せられたる瑞典の社會黨內閣は國家社會主義を實行すべく調査委員會を設けたり（ストックホルム發）

米國農民と政戰

米國諸農民團體聯合本部は共和黨大統領候補者ハーデング氏と民主黨大統領候補コックス氏とに質問狀を發し農民の諸問題に關する兩候補の意見を求めたり

佛國波蘭を援助

佛國首相ミルラン氏は議會上院に於て佛國は露國過激派軍と交戰しつゝある波蘭を全力を傾注して援助する旨聲明せり（巴里）

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125　Tel. Kearny 1396
橫濱正金銀行 桑港支店
資本金一億圓　積立金四千四百萬圓
預金總額五億一千六百萬圓
外國爲替預金送金貸附割引等一般銀行業務一切
鄕里送金 最近便ニテ發送 日本全國何レノ地ヘモ無手數料
本店預金 通知 日步一錢五厘 定期 六ヶ月以上三ヶ年迄 利息年六分五厘以下 特別 十ヶ年迄（重利）日下
支店預金 定期 六ヶ月年三分 一ヶ年年四分 保護（無利息）

古澤律・加藤芳夫 共著　自動車工學 六、〇〇
佐藤紅綠 著　紅椿 二、五〇
長田幹彥 著　小說 薄命の花 一、九〇
田中貢太郎 著　春宵綺語 一、七〇
長田秀雄 著　聲 一、九〇
菅原時保 著　無門關講語 二、五〇
靑木大成堂
1601 Geary St.
Tel. West 5361
San Francisco, Cal.

THE BANK OF TAIWAN, LTD.
SAN FRANCISCO AGENT,
The Anglo & London Paris National Bank,
1 Sansome Street, San Francisco, Cal.
株式會社 臺灣銀行
明治卅一年設立　資本金六千萬圓　預金四億六千二百萬圓　積立及剩餘金一千十三萬圓
本邦預金 定期 米貨二十五弗以上 又は邦貨五十圓以上 年六分五厘以下（以上十五ヶ年迄複利） 通知 米貨二十五弗以上又は邦貨五十圓以上 日步壹錢五厘
鄕里送金無手數料、本邦及其他向普通送金、信用狀發行荷爲替其他
支店所在地 東京、橫濱、神戶、大阪、門司、臺灣各地、上海、漢口、福州、厦門、仙頭、香港、廣東、新嘉坡、孟買、磐谷、九江、バタビヤ、スマラン、スラバヤ、倫敦、紐育
其他取引先 靜岡、名古屋、京都、四日市、廣島、下關、長崎、其他內外各地
尙詳細は下名まで御問合被下度候
臺灣銀行桑港出張員 森本準一
The Anglo & London Paris National Bank. Tel. Kearny 5060

LOS ANGELES CALIFORNIA U.S.A.
羅府東第一街三三一半
みかどホテル
331½ E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行汽船切符取扱（電話）一一七〇四

（廣告）ガーフィルド 二一八一
日本行汽船切符販賣
帝國ホテル

日本行汽船切符御申込に應ず
日本御料理
小川ホテル
桑港カリホルニア街六一二　電話カーネー一八一六
桑港パイン街五五一　551 Pine St., S. F. Cal.

破壞より建設へ　伊藤正德著
正義と自由　中澤臨川著
祖國を顧みて　河上肇著
北米の五車堂
1098 Post St., S. F. Cal.

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St., San Francisco, Calif.
株式會社 住友銀行
社長 男爵 住友吉左衛門
本店 大阪市東區北濱五丁目
營業種類 本國定期預金（年六分五厘以下） 本國特別小口當座預金（日下年六分五厘以下） 本國通知預金（日下日步一錢五厘）
鄕里送金、送金手形（無手數料）外國爲替手形買賣、取立、信用狀發行、貸附其他
支店 日本內地及海外樞要の處に三十六ケ所あり
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五—三一九

CAL. STATE LIBRARY, SACRAMENTO, CAL.

民主思想と新聞紙 (五)

米國新聞發達史の梗概

▲新聞の歴史は民主思想發達史召喚審問を受けたブラドフォードは其後ベンジャミン・フランクリンの文章を新聞に載せてやられた。フランクリンは『世話好きの人』と匿名で執筆し『爲政當局者は公共の精神』がなくてはならぬ』と論じたのである。知事及び參事員會は此れを以て當局者を侮辱したものとなし非常に立腹し發行者ブラドフォードを捕縛投獄した日本にも有名な安政の疑獄ないふものがあつて亂暴な幕吏が人の見境もなく投獄死刑を斷行し稱し正義の人士と▼

▲志士と▼

▲墨痕今▼　尚鮮かなる墨痕は人の知る所である。此の人が官吏に向つて『公共の精神に靈臨し愛國の精神』を要求するに何の不思議もない、餘程公共的精神に缺け愛國心の嫌ひな當局者は見ねて其文章を罪したが後日フランクリンに面會して擧げる顔はなかつた事と想像する。想像した愛國の士は首を肩の上に載せてゐる事の困難な事恰も暴風の時に帽子を頭に載せるよりも困難な時代があつた。フランクリンは申すまでもなく米國の國寶の一人であつて學者であり、外交家であり政治家であつた。米國の獨立宣言書には一州を代表して署名し

▲人獄前▼　には左程一般の注意を惹かず發行部數も至つて少數であつたが入獄と共に非常に評判になり發行部數も増加した。民意輿論を正當に代表した『訴ふる能はざる者に代つて訴ふる』時は民衆の同情期せずして集まり新聞ならば其發行部數獄に投ぜられても政府の税政に提灯を持ち多數の

▲代表し▼　得ざるが爲めで新聞の恥辱である。少々餘談に入つたが兎に角民意、輿論の代表機關であり税政多き當時の行政當局に對抗して一方政治改善し人民の福利を増進せしめ他方、人民の政治的覺醒を促し、民衆の勢力を自覺せしめ、政治上の自由

▲社會上▼　の公正を傷くまで主張せしめ幸福なる民主的生活を營ましめんとした新聞は隨分猛烈に行政當事者と相爭つたものである、當局は無論有らゆる方法を用ゐて新聞を壓迫し政界の改善を妨害せんとしたが輿論は容易に屈しなかつた。牢一大改革はエンゲルなる一獨逸移住者から始まると至つた。

▲人民を▼　責る非民主的なる事はしなかつた。御用新聞にもならねば官報同然の品物にもならなかつた。一體殖民地の行政官は英國より派遣されれば英本國で又言論壓迫が當時恩切切つて亂暴に行はれ新聞經營者の牢獄の憂目は尋常事であつた。前に述べたハリスの如き再三再四英本國で投獄された最初珈琲殖民地に移住したのである。今日のポクシング店を開いてゐたが昔執つた杵束で▼

▲杵束で▼　又新聞を起したが殖民官憲から又候壓迫を受けたのである。此の如く言論の自由を怖れ壓迫又壓迫で無理を通し大官憲が遂に道理に攻め立てられて言論の勝利となり、米國は一大改革はエンゲルなる一獨逸移住者から始まると至つた。

議會委員の同胞調査は甚だ公平なりし爲め前途樂觀

南加農況

南加方面の農業に排日氣勢無し

大小成金を夢むる者多し

南加オレンジにて永らく日本人會幹事として活動し傍ら農業に從事せられし藤野氏は水氏は來る二十六日出帆の春洋丸にて歸朝の爲め出桑帝國ホテルに投宿せるが南加一般農況について語る樣本春鐵道ストライキ當時はレタースキャベージ類の野菜東部輸送の途絶ねて

▲同胞農家の成者は甚だしく困却し多量の野菜を收穫するに到らず空しく畑に放棄せし向もあれども鐵道舊に復すると共に總ての野菜物活氣を呈し特に南加は北加よりも本年天惠多く降雨多量にありし爲め各種農作物の發育宜しく水不足の爲め耕作に支障を感じる憂等絶對になく旁々好景氣なり取分け

▲砂糖大根　耕作者の如き發育狀態好良なるのみならず砂糖市價好況に比例しての割増等展も無單に理狀維持位のものもあり事なれば大小成金を夢む者多數にあり例年は七月頃の理由か注文も多く高價に賣捌かれたれば同耕作者は十年來の成績と大喜びなりキャナリートメトーの市價は餘り宜しき物には あらざるも今年は如何なる

▲今春鑛詰　會社の態度に甚だ保守的なるものあり容易に契約を結ばざりし故其耕作英加數は昨年に比し多大の減少ならんが價格は耕作者の申し合せによりて大抵二十弗以上に契約せしものゝ如しイの取後も降雨多量なりし爲め平年以上の作柄なり總府附近瓜の前景氣は

▲帝國平原　成績に準じて大の利益を期待しつゝあり排日氣勢は南加は北加に比して强烈

五十仙　支拂ふと其日紛糾をゞでも僅か

▼五十仙　支拂ふと其日々々の各病院の手術日程を報じて呉れると云ふ風に便利に出來てゐた」更に齋藤氏風語る「內科の中でもエッキス・光線を專攻して居るが、今度の大戰で此の方面は大に進歩し各方面に使用された、元來此の方面の仕事は醫師と機械師とが一致協力を俟つべきで

▼機械師　を同行せしめて洋行すればよかつたと思つた位であつた、日本でもエッエス光線の機械の獨立を望んでゐる加ふる樣の事も無かるべしと樂觀中の人多し云々、尙南加同胞野菜耕作の前途如何と質問せしに土地を所有せざる

▲借地農業　にては今日以上の發展を期し難かもしも先覺者中適當の地方見付かり次第土地を購入して永久的に土着農業に從事せんとの志望者もある樣なれば今後は寧ろ南加の借地による野菜耕作に餘りに長足の發展も無單に理狀維持位のものの調査も非常に公平なり樣子なれば在留同胞に無謀の壓迫を加ふる樣の事も無かるべしと樂觀中の人多し云々、尙南加同胞野菜耕作の前途如何と質問せしに土地を所有せざる

▲借地農業　にては今日以上の發展を期し難かもしも先覺者中適當の地方見付かり次第土地を購入して永久的に土着農業に從事せんとの志望者もある樣なれば今後は寧ろ南加の借地による野菜耕作に餘りに長足の發展も無單に理狀維持位のもの

知慧の樹殘る

英兵の紀念撮影の爲

天地創造に力リエボの神はエデンの園に善惡を知る知の樹を生ぜしめ給へりと聖書に書いてある。同々、數徒いはく此の樹がユーフラテス川ティグリス川との間に殘るさなし。一本の老樹を神樣のやうに崇んで來たが近來方面出動中の英國の兵隊さん方が之を見つけ「紀念撮影」活落れ込んだらよいが我も我もと大勢登つて樹がダイなしになつて仕舞つた。土耳古の方では大驚動早速英國政府に談判して其所へ千七百五十弗の賠償金を拂はしめ「兵隊さん」は五六日ぜんぜん働の暇なくなつた相だ

獨逸で

洗濯所が不衛生

張米國から來たものが多かつた端西は獨逸製品が多くライニゲルの機械など戰時中に進歩してゐた、墺國クインナンにも行つた

▼獨逸で　は シーメンス會社の紹介で各所を見たがライプチヒ大學で教授の紹介で講義を聽いたが之れが驚て物議を醸し研究所見物を拒絶されて仕舞つた、獨逸學界の日本學界に對する反感かな來ものであつた」

衛生局より命令▼

日本人街の支那人立退

上町日本人街中心地たるポスト街筋にてブキャナン街をラグナ街中間に在りし支那人洗濯所及び雜貨商店は不衛生にて常に目本人間の問題となり居りしが昨日市衛生局より遂に立退きを命ぜられ三十日間に開け渡さるべ旨强制せられたるが何れ該家屋は取拂はれ新築さるべくこれにて日本人街の眼障りは除かれ譯なるが日本人中には不衛生

一哩一弗の罰

▲自動車速力違反に自動車速力法の違反として檢舉された者に對しては既に法廷で判事は一昨日メランなる一米人の自動車速力法違反事件の裁判に同人が市內に於て規定より二十三哩以上の速力を出してゐたと云ふ事で一哩一弗の割合で二十三弗の罰金を申渡したが同判事は今後此種の處罰法を實施すると言明した

西班牙は世界一

好景氣國

○物價も箒棒に高い歐米の商業界の視察を了へ歸途來桑の東京二葉屋株式會社支配者の牢獄の憂目は尋常事であつた。前に述べたハリスの如き再人猪俣眞造氏は語る「世界で景氣の好い國は瑞典、西班牙で就中西班牙の如きは世界一の好景氣國であらう、中立國は一般に景氣がよく其代り物價は目玉が飛拔ける位高い和蘭のアムステルダムでアイスクリームを食つたら一杯日本金一圓五十仙位取られた、これに引換へ英國や佛國は一般に不景氣で割合物價も下つてゐた」

自動車速力法違反

自動車速力法の違反に關する檢舉事件は既に法廷で審判されたるが何れも罰金二十弗乃至五十弗の罰金を申渡されたる二年前の豆の勘定を未だに決濟せざ

豆耕作者組合勤定

最近加州

豆耕作者組合が預かりたる二年前の豆の勘定を未だに決濟せざ

人民主義の故を以て立退きを命ぜられるまいと小言弗々耕作者間に出でつゝあるを由聞及びしがうれかあらぬかメリスビル地方の同組合支配人モアヘッド氏は向よ六十日間に千九百十八年度分の豆に對する總勘定をなすべしと

要求欄

人事

◉帳簿係り一名採用　希望者は本社左記へ御申込相成度月給百九十弗委細は書面又は面談　シーシー農機會社　1226 Tulare St., Fresno, Calif.

夫婦者入用　家族入用　高給な拂ふ　委細は面談　電話ガーフィルド二六二四　公園林業

夫婦者入用　家族入用　高給な拂ふ　委細は面談　電話ガーフィルド二六二四　公園林業

職工二名　年齢六人以上　高給な拂ふ　プロン洗濯所

裁斷師入用　熟練なる男女洋服裁方高給入用　詳細は直接御來談を乞ふ　ヒノヤ風　サンフランシスコ街四六一

婦人入用　桑港ポスト街一五一　流行樂商雜貨店

クック（給料相當）ウェーター（給料至急入用　九十弗）　電話カーネー四〇三

賣家　土地附七室目高りよりゲラーヒル及フォネーヘ附家弗便宜賣銀　Tel. Pac. 1114　287 4 Ave.

琴紛失　六月三十日入港のサンペドロ號にて琴紛失せり仕舞　及フォネーヘ附家弗便宜賣銀　Tel. Pac. 1114

賣家　土地附七室目高りよりゲラーヒル及フォネーヘ附家弗便宜賣銀　Tel. Pac. 1114　287 4 Ave.

尋ね人

叔父を尋ぬ　廣島郡恵田郡　篠崎常太郎　延　小島小糸　570 S. Fairoaks Ave., Pasadena, Calif.

濱崎竹次郎　福岡縣福屋郡和白村茶多　壬金用件　Oakland, Calif.

坂本保次郎（廣島市比次山町）に壬金度候間住所御存知の方は下名（御一報願上候）　454 Jackson St., L. A. Calif.

大本敏夫君　廣島縣佐伯郡地御前村　朝倉　近藤　一　153 Main St., Watsonville, Calif.

渡邊學（愛媛）氏に依てヨコトラン介業事解決壬金籠入たし　住所御通知　P. O. Box 234 Isleton, Calif.

米策藏（熊本縣入代郡千丁村字古閑出）　昨年歸國の際國許より主業事件の依頼受け壬金籠金父に現住所知りたし　アイルトン橋本商會內　西村　單　太

洗濯所賣たし　近代的設備ある洗濯所にして一週間の賣上約千弗賣度便協所具好　出張アシ見出の御方は左に御一報下され度候　丸田ふ　ヒノヤ風　流行樂商雜貨店

洗濯所賣物

ローディ唯一の確實有利なる洗濯所主醫國に付壬金賣度し度し詳細は面談或は左記の所へ問合せられ度し　Lodi Laundry　122 E. Elm St., Lodi Calif.

貸室　グラーヒル付御口聞山あり電車便利　宅地主秋山　廖話アシビー街一〇四〇電話番號六九〇六

古本高價買入

1831 Irving Ave., L. A. Calif.　1231½ N. San Pedro St., L. A. Calif.　知例なる種類にて御密附ち願升　文明堂書店

洗濯所賣物

ローディ唯一の確實有利なる洗濯所主醫國に付壬金賣度し度し詳細は面談或は左記の所へ問合せられ度し　Lodi Laundry　122 E. Elm St., Lodi Calif.

第三回北米母國訪問團

▲乘船變更大阪商船アフリカ丸シアトル出發十月十五日　▲詳細は申込次第規則書發送　シアトル南五街二百十六　責任者　宮崎德之助　T. Miyasaki, 216-5th Ave So., Seattle

高知縣人

今回同胞の實狀を洽く郷里に報ぜんため五六百員の一百冊を配布せんとし在米縣人一同より寫眞應寄稿寄附を募集締切八月十日何卒公共的精神より振て應援を乞ふ詳細は左記へ　萬辨舍　文學士　岡　直　樹　2206 Pine St. S.F. Tel. West 6544

御祝御佛事用

長崎名物カステラ特製　御菓子司　花月堂　桑港ポスト街一七四一一　電話ウエスト六二四

御菓子卸商

桑港グラント街四一七　電話ガーフィルド二二九八　菊屋商店

婦人帽子

特別勉强　フキャルモア街一六四〇（夜間營業）　ポストとゲリーの間　ローズ帽子店

相撲私考

好角老人

▲二人相對しての競技中、體力的のものを擧れば、日本では相撲と柔術。西洋ではボクシング（拳闘）とレスリング（柔術的相撲）である右掲げた四種は何れも徒手洗足で相手と闘ふに於て同種類に屬するが、其中相撲とボクシングは最も原始的のものである。而して相撲が原始的競技に拘らず、殺伐の弊を脫して今日の如き平和的競技に進歩せるに反しボクシングは未だ殺伐の競技より脫せざる點は野蠻的といふべきである。今日のボクシングは恰も野見宿禰時代の相撲の領域を脫して居ら[illegible]、一は足に反し後者は拳を以て闘ふの差あるのみである。

▲柔術とレスリングは相撲及びボクシングと比べると餘程後世に生れた競技である。恐らく人類が醫術を學ぶ頃から始まつたものと思はれる。前者が力を本位とする點に反し後者は術を本位とする點かも見ても其歴史が新らしいことが分る。

▲相撲が國技としての待遇を受けたのは右に掲げた垂仁天皇の頃からであると思ふ、古き記錄に「古へ相撲の節とて禁中七月の公事たり、先づ左右の近衛、方を分けて國々へ部領使を下し相撲人（防人）を召す。廿六日に仁壽殿にて內取（地取）として智禮あり。御覽あり、力士犢鼻の上に狩衣烏帽子にて取る。廿八日南殿に出御、召合あり勝負を決す、其中を選りて抜出とて翌日

▲右に由て考ふるに其初め相撲は專門の職業として從事せしものとなす、諸國より力量の勝れたるものを朝廷の命によりて召出されたものである、而して毎年七月に於て天覽を賜はつたことが分る。

▲併し相撲の技が大に進んだのは專門の業として從事したものが現はれてから大成したものである、今日の相撲が力量のみに よるも四十八手、九十六手の裏表を組織的に構成して虚々實々の妙技を演ずるに至つたのは全く專門大家の工風から出たものと云はねばならぬ。

▲美的觀覽物としての相撲——相撲が原始時代より專門的となるに從つて內取（地取）として智禮を生ずるに至つたのは當然の結果である。即ち武士が專門的なる語を生みしと同樣である。

▲相撲道の進歩は徒らに勝つために爭ふといふよりも綺麗ゆ手を取るといふ事が一般の歓迎すべき處となるのである。品格を失はずして勝つといふことが相撲

醫者と病人

通譯

桑港ポスト街一六〇一　電話ウエスト三五一一

小田運送店

ポスト街一七七六　電話フキャルモア四六一

朝日運送會社

桑港ブキャナン街一六〇一　電話ウエスト七一七

財滿商會

桑港グリー街一五一一五　電話ウエスト九三九二

進物用罐入茶

相馬山　好老松　千代の友　白梅　寒の香　最上花　大走り新茶　相馬自園　富士自園　玉露　冠茶

相馬茶店　SOMA TEA STORE　232-234 E. First St., L. A. Cal.　Phone 63198

迎妻者の福音

來る十一月十九日サイペリア丸第七回東洋觀光團々員に限り出國稅免除の特典を有す　加入御希望の方は御一報次第趣意書を御送附可申上候　申込所　加州館　館主　中野作太郎

相馬茶店

相馬運送會社

加州館

日本郵船株式會社

シアトル出帆廣告

伏見丸　七月三十日　午前十時
香取丸　八月廿一日　午前十一時
鹿島丸　十月九日　午前十時
伏見丸　十月廿七日　午前十七時

409 Colman Bldg. Seattle, Wash.

東洋汽船株式會社

マーケット街六二五　電話サター三九〇〇

船名	著	發	日本行
春洋丸	七月十六日	七月廿六日	
波斯丸	八月三日	八月十日	
これや丸	八月十二日	八月廿一日	
さいべり丸	八月廿六日	九月四日	
海祥丸	八月下旬		貨物船南米行
天洋丸	九月十二日	九月十七日	
靜洋丸	九月十三日	九月十七日	

ポートランド發日本行

春洋丸	十月四日	十月十四日	
安洋丸	十月十八日	十月廿日	南米行

日本ホテル

觀光團員募集

觀光團員募集

日本人街の立退

安藝ホテル

觀光團員募集

北米旅館

母國訪問團

觀光團員募集

移轉廣告

大正藥舗

通信販賣

名醫

都商會

丸三貿易商會

母心

鈴木事務所

渡邊啓

◇西部の大玄關桑港は世界三良港の一と

▲州港灣監督局長の自慢報告

一ケ月の貨物集散能力は百五十萬噸

一時に二百五十隻の大小船舶を繫留

米國西部の大玄關口として許されてゐる桑港は港として世界三大良港の一にあるとは加州港灣監督局長マクカラム氏よりの報告だが今其の報告に依ると地勢上に於ても米大陸

▲西部沿岸　第一の位置を占めてゐる桑港は周圍に四百二十平方哩の土地を有し深さ八尋乃至十尋の深さを有する海岸線百哩を控へて如何なる大船の碇泊にも差支へなく金門灣口は終日終夜大小船舶の入港は容易で灣口水道の水深三十二呎、南水道は卅五呎、

▲北水道は　五十呎あり

桑港港灣設備としては沿線八哩しか出來る起重機船もあつて更らに海岸線に沿ふ運輸鐵道には一時に千五百貨車を準備し得ると云ふ

◆日光御避暑

▼兩陛下御同列

天皇、皇后兩陛下には御機嫌麗はしく本月廿日光田母澤御用邸に御避暑遊ばされたり

◆三大臣を彈劾す

島田三郎氏は議會に政府攻擊演說をなし閣員中高橋藏相、山本農相及び中橋文相等は政府の機密を利用し盛んに株式界に手を伸ばし投機事業に從事しつゝある事は世間周知の事實なりある政府當局自身斯くの如き行爲を敢てなし現內閣の威信を保ち信を國民に繼がんとするが如きは本に繰つて魚を求むるの類なりと論じ政府に肉迫し懸河の辯を振つて當局を攻擊したり

◆淺野造船所出火

横濱に近き鶴見に在る淺野造船株式會社三工場及び倉庫二個不慮の出火にて燒失したり（本社東京特電昨夕七時著）

●柳澤夫妻に無實の罪

▼寶石類五百弗を盜だと

桑港第十八アベニュー二米人ブラック宅就働柳澤某及び同妻タカ子は去る一日同家に働き出したるが約一週間以前羅府よりブラウンなる友人來りて同家に宿泊中去る二十日頃

▼所持の寶石類貴金屬時價計五百弗を紛失せりとて柳澤夫妻に嫌疑を主人夫婦及び友人等五名も集りて柳澤夫妻を別々に呼び出し『良人は既に白狀せるを以つて汝も白狀せよ』とか其他頗る辛辣なる方問にて不法身に覺ねなきまゝ鉈迫被等の手に乘じ絕對に

▼無實の　罪なるを主張せるも主人等も始めて己が非を悟り漸く一昨日所定の給料を支拂ひて解雇せるが警察側にては調査の結果柳澤夫妻の正直なるを認めたるも夫妻は主人夫妻の證尋問を試みたるが夫妻は元より寶石類貴金屬時價五百弗を紛失せりとて柳澤夫妻を別々に呼び出し『良人は既に白狀せるを以つて汝も白狀せよ』とか其他頗る辛辣なる方問にて不法身に覺ねなきまゝ鉈迫被等の手に乘じ絕對に　罪なるを主張せるも主人等も始めて己が非を悟り漸く一昨日所定の給料を支拂ひて解雇せるが警察側にては調査の結果柳澤夫妻の正直なるを認めたるも夫妻は主人夫妻の證尋問を試みたるが夫妻は元より身に覺ねなきまゝ鉈迫被等の手に乘じ絕對に　罪なるを主張せるも主人等も始めて己が非を悟り漸く一昨日所定の給料を支拂ひて解雇せるが警察側にては調査の結果柳澤夫妻の正直なるを認めたるも夫妻は主人夫妻の證尋問を試みたるが夫妻は元より身に覺ねなきまゝ鉈迫被等の手に乘じ絕對に

●神崎驥一氏商科長に決定

▲關西學院の

大阪毎日新聞の報道

在日會神崎驥一氏は豫て大阪關西學院に就職方交渉中なりしが愈々其の目的を達し大學に昇格し決定せる同學院商業學部商科長に就任し決定せる旨七月六日付大阪毎日新聞は掲載し居た

●呼寄せ子供上陸拒絕さる

▲桑港での新例

今便の春洋丸にて父より呼寄せられたる沖縄縣人宮城幸音は特別審問の結果未だに天使島に抑留され居る由なるが其の理由を聞くに同人の父が先に養子として來國に來りしも其の後離縁し更に實子を呼びたるものにして昨今排日屋連が養子制度を云ふする折柄一層厳重なる取調を受けたるものしく何れ南三日中には確なる決定を見る可しと滯本在日書記は語れり

●明春決行の桑香間飛行

▲米國海軍の壯擧

全米飛行機展覽會に於て發表せられたる所に依れば米國海軍は氣象狀態最も良好なる來年の三四月頃を期し桑港香港間七千六百十六浬間の大飛行を擧行する筈にて休憩地點は桑港發ホノルル、ウェーク、グアム、マニルル、ウェーク、グアム、マニラ等を經て香港に赴くものにして最も難所は桑港、ホノルル間（二千九十一浬）にて好天氣なれば廿四時間にて飛行し得べしと

◆日本船員と酒

▲米國で密賣の疑

横濱領事館で厳重な取締り

米國行諸船乗組の日本人船員中着米後米人に酒類を密賣し不當の利益を得つゝある者ありとの風說あるに對し横濱稅關官憲は米國行諸船乗組員にして私用の普通程度以上の酒類携帶乗船を厳重に取締り居れりと（東京發電）

●前の富丸沈沒す

▲四十二名行衛不明

墨國補助機關附帆船チャコリスコンデ百七十噸前にサンデーゴの日本人所有の富丸は墨國マサトラン沖に於て夜分顚覆沈沒し乘組員四十二名行衛不明となりし旨本月入港の發動機船ジャネット號にて齎らされたる船員は一九一五年横賀に於て建造されたる漁船なりしが重荷の爲め沈沒したるものなりと

●厄介な米婦人

▲出鱈目の排日談

排日流行りの昨今猫も杓子も飛び出して色んな出鱈目を並べ立て喜んでゐるが玆にボイド夫人なる者云ふ一婦人、七年以前役者をして日本へ行た事があるとかで奇妙な日本通を振り廻はし昨日英字紙に『排日婦人』の銘を打ち『日本婦人は一人前になると直ぐ政府の命令で子供を生む事を奬勵されて僅か二年の間に二人の子供を持ち又兩親は娘を平氣で賣却する』とか其他途方も無い嘘つ八を並べたて

◆持ち直して來た景氣

▲地方が購買力を増し小賣商が在荷僅少になつて來たと

＝米國向け爲替を買はぬ理由＝

過去兩三ケ月前より一般財界不景氣となり物價は追々下落の傾向を示したる爲め一般消費者及地方小賣商は品物の購入を一時差し控へ從つて到商は閑散殆んど取引休止の姿一方銀行は貸出しを引き締め

▲益々取立を嚴重に爲したれば財界の不振は甚しく斯くの如き狀態繼續すれば果して如何なる結果を見る可きや一般より大に悲觀され居たり然るに昨今に至り購入を差控へ居たる地方行は該爲替を買はず代金引換支拂の方法すら取るに至りし事情

▲大商店が　資金の融通に困りたる一策として米國所在支店を利用し盛んに品物を輸出したるも支店は之れを受取る能はざる事情あり爲替支拂に差支へたるもの尠からざる爲め一般銀行は該爲替を買はず代金引換支拂の方法すら取るに至りし事情

●米國から辭爵願ひ

▲紐育正金の加納子

目下紐育正金銀行に居る一宮の納久宜氏の嫡である加納久朗子爵は昨年八月の襲爵者であり爵を聽許せられざる事情を知るが故に其儘にして渡米した其の後米國の自由平等主義に觸れ

▲一層　心に期する處ありて華族制度改正に關する意見を抱き遂に米國より建白書を送つたさうだが其の內に『辭爵を願出』の一項があるさうだ而し該建白書は其儘握り潰されて何の音沙汰も無いと

◇風光明媚＝ルル河畔に遊ぶ同胞少年軍の群＝

◇—摘採せるアップル等を持ち歸り申候—◇

ルシヤン河畔にて　佐野佳三（笠）

云ふ迄もなくボーイスカウツ運動は善良なる市民の養成には敬神愛人が其基礎たる可きを強く主張し居るものに御座候昨日は半數の少年が神谷氏の農園を訪問し歡待を受け

▣摘採せるアップルなど持ち歸り

中候、本日は殘る半數の少年が參る筈に御座候、三哩を距れるタウンなるフォレスヴヰルに毎日二人の少年食料品を購入に參り候、同地には舊知のシルク氏あり常に好意を以て萬事を周旋し呉れられ候、我等のキャムプは北西太平洋鐵道のグリンヴレー停車場より

▣三ブラックの處に在り下車して橋上に立てば明かに我等の天幕を認め得らるる可く候、汽車賃は往復にて二弗九十七仙十五日間有効に候、我等は二十七日迄滯在し居れば少年諸君にても兩親諸兄に居て何人にても御來訪御

◆早くも離婚騷ぎ

▲困つた挨及王女

魅力ある双の瞳で法廷の原告を攻め落し離婚事件取下げと同時に結婚せしてアフ婦の例、埃及王女のテラ、パトラが羅馬の夢、未だ醒めざるに今日ドルが夏ヘアール君なる御手取り離婚するとか聞いでゐるといふ風說も傳はつたが然し理由は自分と詳獄師に訴へた彼れに對する復讐とあるさうだが斯うなると「今後アールが狂人として全く遠捕狀を請求する高があれば直ぐ發行する」と運命な陛下とアード判事は豪らかつたな

●安田は故郷に護送

▲送還された強盜犯

明治四十二年六月中旬に於て強盜凌辱犯として無期徒刑に處せられ今春二月送還を條件として特赦を許可せられ先便プエ（三）の始末に關し横濱水上警察（三）の始末に關し横濱水上警察部と協議の結果廣島縣より態々出張せる警官二名附き添ひにて同人を原籍地に押送したるを云ふ

◆早くも離婚騷ぎ

▲困つた挨及王女

魅力ある双の瞳で法廷の原告を攻め落し離婚事件取下げと同時に結婚せしてアフ婦の例、埃及王女のテラ、パトラが羅馬の夢、未だ醒めざるに今日ドルが夏ヘアール君なる御手取り離婚するとか聞いでゐるといふ風說も傳はつたが然し理由は自分と詳獄師に訴へた彼れに對する復讐とあるさうだが斯うなると「今後アールが狂人として全く遠捕狀を請求する高があれば直ぐ發行する」と運命な陛下とアード判事は豪らかつたな

●矢島女史講演

▲一般の來聽を歡迎

日本婦人矯風會長矢島楫子女史は本月午後二時よりポスト街ソフォームド教會に於て『歐米の婦人界と同胞婦人』なる講演を試みらるゝ筈なれば一般婦人は勿論男子にも奮つて來聽せられたしと

龍攘＝虎搏

▲盛な前景氣

＝横綱料二萬両＝

▲土俵入と化粧廻し

上街下街の大人氣を集めた大阪大相撲の初日は愈々本日午後六時半よりドリューム・ランドリンク（サター街電車にてスタイナー街下車）に於て開場入場切符の賣行き頗る良好値段は三弗均一なれば早い者勝で好い場所に

▼座られる　譯尚は今晩は春場所にて西方が獲得したる大阪七新聞社より贈られた緋珍の優勝旗を飾り土俵入りには横綱を張り廻した時に關西の成金連が贈つた化粧廻し一枚で二千兩もするのが

▼八組みも　もつて毎日變へて出ると云ふ素破らしい景氣で廻しだけでも二三萬兩の財産大關脇日山は大阪後援會から贈られたこれ又た一枚二千兩と云ふ飛び切り物を締めるさうだ尚ほ一行は當地を打揚げてから決定日割は二十八、二十九兩日は須市羅府に於て興行六月七日八日は「フレスノ市十四日、十五日はサクラメント決定」なにても興行の豫定

▲今晩の取組

因に今夜の主なる取組は左如し

月の戸　駒錦　二瀨川
荒木　千代　大錦
岩の松　嵐山　大貫
西の森　鳥山　朝武藏　武藏野　御所車　朝日山　御所の龍　矢の龍　南の音　千放　松の瀬

◆英語個人教授

グリー街一四〇八ミセスカイル

實用英語學校

（千九百二年創立）

Masa Coleman & Lloyd. 2905 Bush St., Near Lyon St., S. F.

桑港フィルモア街一六二四　電話ウエスト六三六〇　原田寫眞館（ポストとゲリーの間）

桑港フィルモア街一四三七　●引延　●進星　吉里寫眞館　電話ウエスト八六五〇

シンガーミシン

一ケ月間裁縫無料教授

桑港ポスト街一七一七　電話フルキルマー一九八七　みとま

暑中休暇休業　七月三十一日まで

新學期開始

八月五日より

巴裁縫女學院

桑港フルトン街一〇〇九中（ハイネとカーフルトン間）　元吉寫眞館　（電話）ウエスト一〇五四

グリー街一三五七　ピアノ教授　並に　すき燒　電話ウエスト一六六二　博多屋

桑港ポスト街一七一七　電話ウエスト一三二九　精肉切賣

紳士淑女子供兼用　靴一切　特別大勉强　浦川靴店

日本人向

救世軍

本營　小隊　療養所

電話ウエスト六〇八二　進信は一切1532 Laguna St., S. F. Cal.

金門貸自働車

ポスト街一六五　電フィルモア一三七七　猪野

斬新流行

大勉强　谷靴店　販賣部　修繕部

グリー街一五〇九

本年度　新茶定價表

大々走新茶　一斤十五弗
大走鐵人　半斤　一弗五十仙
同　半斤　三　弗
同　一弗五十仙
一、三オンス七十五仙
一、
一、
一、
一、

電話六三一九八　相馬茶店　234 E. First Street, Los Angeles.

常盤園

高等　めしや　開業御披露

私事日本倶樂部を止め左記の處にて來る二十八日より營業可致候間何卒御愛顧御引立の程奉願上候

ポスト街一七六七

アイスクリームパラー新設

御菓子輸出入　勉強堂製菓會社

桑港グリー街一五三三　電話ウエスト七五三七

普請中左の處にて假營業仕候

電話カ子一四四一八　天賞堂

◇大阪角力渡米◇

來る十七日入港の泰洋丸にて大阪角力大錦

朝日山

一行四十五名桑

興行時日　來廿四、五、六、三日間

場所　スタイナー街　午后正六時　ドリームランドリンク（ポスト街とサター街中間）

次回興行スタクトン市　來る廿八、廿九日兩日

桑港興行會社

支配人　奥定吉　中野作太郎

本部　加州館內

加州桑港スタクトン街一〇一九番

歸國謹告

私事今般家事整理の爲め一時歸朝致し三ケ月の後は歸桑可致候間は不在中はドクトル北河廉次郎君に萬事依頼致し置候間此段廣告仕候

敬白

各位　門野普光

病者の爲

信頼の出來る醫師、血液檢査所及びX光線部の紹介通譯をなし病者の相談に應ず

桑港ラグナ街一四三二　救世軍顧問

電話ウエスト六〇八二　醫事部

電話フィルモア六一八

同（ムロック街五二五　電話フィルモア六一八

タムラ藥舗

桑洋貿藥並に男女用品一切

電話明書は御申越次第差上ます

TAMURA YAKUHO, 1708 Buchanan St., S. F. Cal.

大河原法律事務所

北部電話ポリフィック八四八一

T. Okawara, Hearst Building San Francisco, Tel. Sutter 3127

一日十仙

たやすく買へます

シンガーミシン特價販賣

桑港ブキナン街一七一五　電話ウエスト四〇三七　太田永太郎

小川藥舗

強壯補血　オー、オー強壯錠　一ケ月分金二弗

米國細菌研究　小川龜重（目錄進呈）

電話ウエスト九五七

OGAWA'S PHARMACY, 1703 Buchanan St., S. F.

ビニス氏パーフー錠

服藥者へ黑全快者實に多數

會の結果は効なかりし人の多くは服藥中の不注意自白さる

新法令印紙料共五十錠入一瓶五弗廿仙

二瓶九弗四十仙三瓶十二弗六十仙郵送無料

神經機能衰弱には種々あり

熟眠不能、耳鳴、眩暈、業務倦怠、判斷力記憶缺乏、不安、心配、短氣、失望、神經性食慾不進及便秘、皮膚蒼白、機能不隨一切並に婦人のヒステリー等

輕るきは一二瓶重きは三四瓶にて大抵全治す神經過用の人持藥に少量つゝ用ひられよ神經衰弱を放任してると發狂となること往々あり治療は一年でも若い內は回復容易なり

レナ製藥會社製本藥　鈴木商會

日本人部ユーゼント

SUZUKI Co. 1532 Post St., S. F. Cal.

鈴木商會

最新式自轉車モータサイクル及附屬品一切並に修繕中古、クリブランド、モータサイクル多數持合あり

輸出入卸小賣　部谷自轉車商會

桑港ポスト街一八二四　電話ウエスト八三九六

◎『西にニコライ・レーニンあり 東に原内閣あり』永井柳太郎氏の演說
＝精神上の動搖は生活難より來る＝
＝階級鬪爭の傾向と其責任者＝

七月八日の議場に於て永井柳太郎氏が『西にレーニンあり東に原内閣あり』と絶叫して大問題を惹起したることは既報の如くなるが右永井氏の演說大要左の如し

『去七月三日以來内閣諸公の演說を拜聽したるも尙同志の質問に對する内閣諸公の答辯にも慊らざるものある爲め此に質問を發せんとするものなり過日の内閣總理大臣の施政方針の演說は國民を指導するものとしては極めて簡單にして何等高遠なる點を認めざるなり故に本員は此に思想問題及勞働問題に關し質問すると同時に陸海軍大臣にも質問せんとするものなり』

と前提して尼港事件の問責的質問を爲し進んで

『近時國民思想の變動しつゝあるを原首相は認めつゝあり然かも原首相は之を外來思想の感染に過ぎずと云ふも這は大なる誤りにして

▼寺内内閣▲ 當時より現内閣に至り益々甚だしきに至りたる物價の暴騰が之が大なる原因を爲せるものなり此物價の急激なる暴騰が生活の不安を感ぜしめたる結果國民は煩悶の極現代の政治組織を疑ひ經濟組織を訊ふに至れるものなり當局が如何にカールマルクスを讀むを禁ずるもクロポトキンの書を讀むを禁ずるも此

▼精神的變▲ 動は決して止まるべきものに非ず此物價の急激なる暴騰を來し精神的變動を來さしめたる責任を負はざる可からざるにあらずや』

とて物價調節令の何等効力なかりし事を痛論す論は更に進んで

『當局は物價の騰貴に適合する收入の増加を計る事を爲さず生活の不安を激成せしめたる原内閣は其精神的變動に對し宜しく其責を負はざる可らず』

と云ふ政 會騷然として質問にあらずと絶叫す

『最も危險ある勞働問題に對する處置につき原内閣は何等爲す事なく勞働問題を過激化せしめつゝあり目下勞働者と資本家との間には誠に悲しむべき反感と誤解とを生じつゝあるなり』

とて勞働團體運動の實例を擧げて政府の無定見無方針を痛罵す

『勞働者が斯くの如く資本家との間に階級的戰鬪を爲しつゝあるに對して何等之に對する緩和策を採る事なく警官と軍隊とを以て之に肉薄しつゝあり之が實例としては

▼階級爭議▲ を調和すべき勞働組合をさへ許可せざるにあらずや勞働者を壓迫するに警官と軍隊とを以てするに於ては徒らに危險思想を助長するものなり勞働問題に對し政府に何等の智識なきは昨年米國に開かれたる國際勞働會議に出席せられたる我代表に依りて明かなり』

と論は益々勞働問題に對する當局の無識を責むるに及んで政友會席に卓を叩いて騷然たるものあり永井氏は我勞働代表者を痛罵して外國より保留委員のアダ名を蒙れりと冷笑し我原内閣は勞働問題を解決するの能力なしと斷言するや政友會復た喧囂を極む

『原首相は階級打破を恐る而かも今日は幾多の階級あり此各階級間を最も好く調和するの方法を採り國民を安定の地に置くは一國の宰相當然の責務に非ずや原首相は宜しく各階級の代表者を集めて生活の安定を得せしめ能く

▼腦の中樞▲ が手足を使ふ如き狀態にあらしめざる可からざるに之を行ふ事なきは我々の斷じて採らざる處なり畏くも先帝陛下は能く之を御認めになり廣く會議を起して民意に問ふべしとの御趣意を能く徹底せしめられたり然るに原内閣は此の御趣旨に反して民意を問ふに躊躇せり實に專制政治を行ふものにして西にニコライ・レーニンあり東に原内閣あり

さいふや政友會は一齊に喧囂を極め幹部席亦色めき渡る鵜澤氏發言を求め政友會席に失言懲罰の聲高し奧議長は靜聽に聞けば演說は早く終るべしと宣して公平振りを發揮す永井氏は更に

『原内閣は國民の上に基礎を置く事なく階級專制を聲明せんとす加ふるに過日の島田氏の演說によりて

▼現閣僚が▲ 政商と結托して利を得たりと云ふ如き誠に階級鬪爭を誘起せしむるものにして其責任は斷じて許すべからざるなり

と結んで降壇するや議事進行に關して發言を求め鵜澤總明氏登壇『唯今永井氏の演說には原内閣が階級鬪爭を誘起せしめたるが如く亦明治大帝の詔勅に違反したりとの言辭あり不穩なるをもつて之を取消されたし』と云ふや憲政會『輕卒なり』『速記錄に依れ』と叫び議長亦速記錄に依りて動議の可否を問ふこととなりて成立す

◎政府不信任案
▼憲國兩黨合同提出
▼對露政策の無方針

憲國合同の政府不信任案が出た、其の理由の第五に對露外交策の無方針が數へてある▲國民黨總理の犬養君は外交調査會に居ながら即ち『無方針』に參畫しながら其の無方針の彈劾合同案にも黨議として參加はチャンチャラをかしい▲道理で其の說明に自分は出ないで濱國型の者をして之れに當らしむるさうだ▲尤も上程の日は犬養君は缺席して『罪過の累積』から御免を蒙つて自宅の藤椅子にかけ、外調委員としての手當金額を精算して見る筈だと京童は噂してゐる

農界雜事

◎グラスホッパー
▲驅除藥調合法

昨冬雨が少なかつた爲めか今年も方々からグラス、ホッパーが繁殖して作物を害すとの報告がある以前に或は其驅除法について發表された事があるかも知れないが念の爲めにもう一度其毒藥調合法を揭げる

PARIS GREEN (OR WHITE ARSENIC) 一封度
MOLASSES(BLACK STRAP) 二クオーツ
レモン（細かく碎いて） 六個
水 四ガロン
ブラン（又はアルファアルファー・ミール） 二十五封度

初めに水にモラセスと毒藥とレモンをよく掻き混せて後除虫にブランを練り合はせる、此量は四五英加に充分であるから、之れを手で薄く播き散らす、果園や野菜畑には午前、アルファルファー畑などには日中に播く

金曜日の桑港市場（七月廿三日）
芋更に暴落
▲苺も弱氣

▲ポテトー不況 數日來減切り弱氣を示めせるポテトーは更に昨朝に至り暴落して一封度三仙四分一より四仙、上等と云へども五仙臺を出でざる有樣にてナンバーツーものは二仙より三仙臺を往來するに至れり、品過剩にて更に猶は下向きの傾向を示めせり、高價の時代に多量仕入れたる仲買商など目下頭痛の態なり、

▲瓜の弱氣 帝國平原產のキャンタロープの出荷全く已みターラック產が獨り天下を極め込む時代となれるが本日は稍弱氣を示めせり、ハネデューは昨今出荷仲々盛にて更に下落し弱値を稱へたり、西瓜は幾分恢復し三仙より四仙臺までに上向きたれど天候は又候不順となり冷氣襲來の傾向にあれば前途氣遣はれつゝあり

▲トメト着 トメトー幽荷盛となり本日二貨車更に到着したるが市價は弱く聊か過剩氣味なり、スコツシも却々恢復に至らず依然として弱氣を示めせり

▲胡瓜椒蕃出荷 昨今胡瓜及び蕃椒の出荷旺盛にて何れも品過剩となり市價下向きを示せり、ピース聊か良好にてサンレアンドロよりフレッシもの出荷あり封度六仙の相場を稱へたり

▲苺が下落 苺は昨日百五十五チエスト・トラックにて出荷されたるがストロベリは天候不良の爲め市價下落したり

▲フイツグス弱氣 本日ブラック・フイツグス出荷ありたるが市價は弱氣を示めせり、ピーチも數日來の好景氣を見る能はず弱氣を見せたりされど上等ものは需要多く市價もよし

▣果物類
▲グレープ 一クレート南加產マラガ三弗より三弗廿五仙ダテナ五弗より六弗北加產フアーナンブルー一弗牛より二弗タムソンシードレス二弗七十五仙より二弗廿五仙
▲ペーヤ 一封度五仙より六仙一箱七十五仙より一弗廿五仙上等一弗牛より二弗牛
▲プラム 一箱クライマン七十五仙より一弗廿五仙ツラゲデークレート一弗五十仙より二弗フオルモサクレート一弗五十仙より二弗二十五仙
▲ピーチ ラグボックス一弗廿五仙より一弗牛上等二弗牛一クレート一弗廿五仙より一弗七十五仙
▲フイツグ 一クレート黑箱一弗より一弗廿五仙ダブル箱一弗牛より一弗七十五仙
▲オレンヂ 箱バレンシヤ四弗より五弗上等六弗牛
▲レモン 箱二弗廿五仙より三弗牛上等
▲グレープフルーツ 一箱三弗より三弗四弗廿五仙
▲アップル 總て四テヤにてニユータウンピピン三弗五十仙より四弗新もの小箱一弗五十仙より二弗廿五仙サンノゼ一箱二弗牛ソノマ二弗五十仙より三弗
▲アイルトン 一箱二弗
▲アプリカット 一封度五仙より八仙一クレート一弗廿五仙より二弗ラグボックス一弗廿五仙より二弗廿五仙
▲チエリー ブラック一封度八仙より十二仙ローヤルアン一封度十仙―十二仙
▲チエリ ブラム一クレート箱一弗オレゴンチエリ（ブラック）一封度十仙より十四仙一ドロア二弗より二弗廿五仙ローヤルアン一封度八仙より十二仙一ドロア一弗廿五仙より一弗五十仙
▲ストロベリー 練村及サンタクララ郡等の沿岸地方一ドロア舊バスケット七十五仙より一弗標準バスケットもの七十五仙より一弗廿五仙上等一弗二十五仙キヤナリ行一封度十四仙
▲ラスベリ 一ドロア（十二オンス入）一弗同（八オンス入）七十五仙
▲ブラックベリ 一ドロア小バスケット四十仙―五十仙大バスケット七十五仙
▲ローガンベリ 一ドロア（十二オンス入）六十仙より七十五仙（八オンス入）四十五仙より六十仙
▲カーランツ 一ドロア五十仙

▣野菜類
▲新コーン 一袋二弗牛より三弗
▲カサバ 一ダズン帝國平原產二弗より二弗二十五仙
▲ハネデユ 一クレート一弗より一弗廿五仙
▲キヤンタロープ 一クレート帝國平原產ポニース一弗七十五仙より二弗スタンダード二弗二十五仙より二弗七十五仙
▲ウオーターメロン 一封度三仙―四仙
▲スクワシ サクラメント一クレート七十五仙より一弗イタリヤスコツシ八十仙
▲ポテト 一封度上等四仙牛より五仙牛ナンバーツー二仙より三仙
▲甘藷 一パウンド新もの十仙より十二仙牛
▲ペッパー 一パウンドベル八仙より十二仙牛ラグボックス一弗より一弗二十五仙チリ五仙より六仙ラグボックス一弗より一弗二十五仙
▲胡瓜 一クレート七十五仙より一弗ラグボックス一弗廿五仙より一弗五十仙
▲エグプラント 一封度ピングストン八仙より十仙ラグボックス一弗廿五仙より一弗五十仙南加一弗より一弗廿五仙
▲キヤロット 新一袋二弗より二弗牛
▲ガーリツク 新十仙より十五仙
▲トメト 南加一クレート七十五仙より一弗牛マーセド一クレート六十仙より一弗二十五仙ラグボックス一弗五十仙より
▲アニオン 一袋赤七十五仙より一弗黃九十仙より一弗牛
▲ネギ 一箱五十仙より一弗上等一弗廿五仙
▲ビース 一パウンド六仙より八仙
▲ビンズ 一パウンド黃五仙より七仙青六仙より九仙ライマ十仙より十二仙牛
▲レタス クレートアラメダ一弗牛より
▲セロリ アラメダ一クレート六弗より七弗
▲ルーバーブ 箱一弗五十仙より二弗
▲パセリ 六十仙
▲鷄卵 上等六十一仙牛エキストラプレツ五十仙アンダサイズ廿九仙

佐賀の夜櫻
悟道軒圓玉演

【四】助けを呼ぶ女の悲鳴

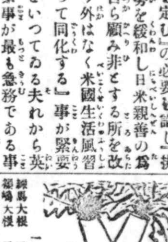
小森半左衛門も當時は按摩、呼込まれたは鎌倉河岸の質屋の裏○『此處へ入つてたくれ』半『御免下さいまし、好いお住居でございますな』○『褒められては面目ない、獨り者だからの、ちとむさいと云はれるが口惜しいから、一生懸命に掃除だけはして置く』半『左樣にございますか、道理こそよく片付いて居ると存じました、然しお一人では御不自由でございませう』○『不自由な時もあるが、マア貧乏人に嫁なぞは無ね方が好い、これば此方で斷つても大家の娘が嫁に來る、何でも金を造へなければいけねね、按摩さんなぞは每晩斯うして流して歩き、人を摑んで錢を取る、これが本當の摑み取り、うまい渡世だナ』半『どういたしまして、さア上から致しませうか、それとも下にいたしませうか』○『さうさな、肩が張つて困つてゐる』半『左樣にございますか、然らばた療治に取かゝります』著てゐる羽織を脫ぎ、袂を探つて取出したは白柔革、ピユーと其を扱いて襷にかけ、澁染の手拭にて後鉢卷をした○『オイ按摩さん、襷鉢卷は驚いたね、敵討をするやうだぜ』半『仕度を嚴重に致さぬと力が入りません』○『大きにさうだな、サア、一つ肩をやつてくんな』半『宜しうござる』後へ廻つて手をかけて 半『成程これは大分凝つて居る』云ひ乍ら揉んで來た○『エ、擽ぐつたい、もつと強くやつてくんねえ、そんな事では利かねね、俺の肩は按摩泣せだ、摑み殺すつもりで揉でおくれ』半『ハ、ア承知いたしました、これにては如何でございます、斯う云ふ風にいたしては』○『まだ利かねね、もつと強く』半『左樣かな、然らばこれにては』親指で筋を押す柔術に達して居る半左衛門、此處を押せば通じると云ふ事は知つてゐる○『好い心持だ、ア、好い心持だ、お前は筋揉だな、ウムその呼吸だ』半『宜しうござるか』と云ひながら筋を採みほごす、好い心持になつてその人はうと〱と居眠りを始めた 半『これはいかん寢てはいけぬ、オ、〱寢付いてしまつた、行儀の好い寢方があるものだナ、坐つたまゝ寢て居る、宜し、目を覺してくれる』拳を固めて、脇腹をエイツ○『オイ何をする、冗談しちやいけねね、ア、痛ね』半『ちよつと當身を』○『馬鹿な事をしなさんな、驚いた〱』半『イヤ死ぬ樣な事はござらん』○『死んで堪るものか、按摩さん、お前は何だな、以前二本差だな』半『ハ、』○『アあるめねし、お前は以前た侍ひだな』半『御眼力の段恐れ入りました、如何にも以前は帶刀いたしました者で』○『さうだらう言葉遣ひと云ひ、樣子と云ひ、たゞの按摩ではないと思つた』半『して貴下は何を以て渡世となされるか』○『俺はチンコ切りだ』半『ハ、ア何でござる』○『チンコ切だよ』半『ハ、アチンコ切とはどう云ふ稼業か』○『煙草を切るのが渡世だ』半『成程、然らば貴下は煙草切、どう云ふ理由でそれをチンコ切と申しますナ』○『どう云ふ理由だか、りんな事は知らねね、みんな俺等の事をチンコ切と云ふ』半『ヘエー……』○『又明日の晩も來てたくれ、サアこれは療治代だ』半『多分にた惠み下され、有難く存じます、然らば明夜又た伺ひ申すでございませう、失禮をいたしました』鉢卷を取り襷を取り、羽織を著てその路次を出た 半『大分更けたやうだな、もう四つにもなるかな』ピーと笛を吹き鳴して行くと、向ふの方でアーレツ、誰方か來て下さいようと女の聲、半左衛門これを聞いて何事かと聲する方を心當に急いで馳せつけた。

婦人と家庭
◇在米同胞婦人方の寄書を歡迎します◇

◎女子青年『日米親善號』を讀む
啓發上多大の効果
（一）
XYZ生

桑港及び羅府基督教女子青年會の機關雜誌『女子青年』は今回『日米親善號』なる特別號を發行した。時節柄極めて適當な試みである全部八十頁に近く記事のみで五十六頁を占めてゐる。體裁は表紙からして頗る瀟洒、印刷鮮明、實に快い。內容はお定まりの『記事豐富、見る可きもの多し』を片付くる可く餘りに充實してゐる。編輯主任者の技量に敬意を表せざるを得ない。在留日本人と米國人との親善の急務に迫られてゐる今日、大澤夫人の述べられた通り『男子だけの努力では、其眞髓に觸れぬ憾み』多き時に『女子青年』が『可なり大膽な企て』を謙遜してゐられるが眞に此の如き大膽且時宜に適した努力は一般婦人界の啓發に貢獻する所多大なるは否定し得ざる事實である。日米親善は語る可きものに非ず、爲す可きものたるは申すまでもない平凡の眞理であるが同時に親善の方法は多種多樣にして此れに關する意見、實驗等の交換は極めて望ましき事である。『女子青年』の目的とする所亦此れにあり、殆ど加州全部に亘り二十餘名の婦人の意見、實驗談を集めてゐる卷頭の小池、安孫子、大澤三夫人の意見は蓋し何人も承認せざるを得ざる點であらうと思ふ。小池夫人は日本婦人が『米化せぬ』といふ非難に對して私達は今直ちにノーと否定する勇氣は出ないので御座います』と出發點より風俗習慣等に同化するに『餘り努力せずとも自然に迅速に米國風の生活に突入して行かれる』種類の人々から『自ら米化の必要を感じて意識的に一生懸命米國の生活風習を學ばんと努力する人々』夫れから『全くで無意識無方針な生活を送つてゐられる』人々との三種の區別をなし『在留同胞の中遺憾乍ら未だ第三の部に入る方々が少なくない樣に思はれます』と述べ同胞婦人は『此際決然として御覺醒なさる事を熱望』し『米化の道を辿り第一自分の心に火を點じ日常の目的に向つて努力する基調を定む』の必要を論じ『排日の氣勢を緩和し日米親善の爲めには自ら顧み非とする所を改むるより外はなく米國生活風習に突入つて同化する』事が緊要であるといつてゐる夫れから英語を學ぶ事が最も急務である事や英語が分らなくとも成る可く米人と『心と心との接觸』に依つて親しみを加へ得る點を逃べ『多くの在留同胞婦人が交際し易い米人はりの隣人で御座いませう』と結んでゐる。安孫子夫人は『日米親善に就いて』第一に先づ生活の哲學的基礎を明白にし『自分等が米國に生活してゐるといふ自覺から出發して其生活を優良に進める所の努力が軈て日米親善を齎らす結果となると信じます』と逃べてゐる。

たねまけ（タネチ）まけ



一斤
練馬大根 二、二五
鎌倉大根 二、二五
眞黃白菜 一、八〇
金州白菜 一、八〇
時なし大根 二、二五
ちりめん白菜 一、八〇
縮葉シヤクシナ 一、八
一斤
宮重大根 二、二五
大玉白菜 一、八〇
朝鮮白菜 一、八〇
聖護院大根 二、二五
チイナ大根 二、七五
聖護院カブ 一、五〇
レタス ニユヨーク
カブ 紫丸カブ
人參 アンバー ハーフロング
ビー ブリツクリー
スピニチ ストラテジエム
其他なんでも
遠方の方はチヤツキでもCODでも送升
北澤兄弟商會
Kitazawa Bros 197 Jackson St., San Jose, Calif.

大阪朝日 取次 桑港 日米新聞社
37 Beideman St. San Francisco, Cal.

最新刊
樋口麗陽 小說日米戰爭未來記 一、五〇
田山花袋 山水處々 一、六〇
浪六先生 奇人變人錄 一、八〇
石川啄木 啄木全集（第三）評論 感想 書簡 二、〇〇
碧瑠璃園 栗山大膳 二、五〇
水野葉舟 四季の文章修行 一、二〇
田部重治 混沌より統一へ 一、五〇
クロポトキン 大杉榮 革命家の思出 三、三〇
桑木嚴翼 文化主義と社會問題 三、二〇
河竹糸子 默阿彌脚本集（第二） 三、五〇
東京數學院 最新算術問題通解 二、三〇
高橋、伊藤 妊娠より分娩まで 附無痛安產法と受胎制限法 二、〇〇
長田幹彥 改訂續金色夜叉 二、〇〇
奧野他見男 君と別れて松原ゆけば 九五
本庄榮治郎 經濟史研究 五、二〇
山田わか 賣笑婦の研究 一、六五
廣津和郎 朝の影 二、三〇
新城和一 心靈の輝き 二、五〇
桑木嚴翼 縮刷哲學綱要 二、五〇
松崎天民 醉ざめの悲哀 五〇
博文堂
羅府東一街二五〇 電F二五九五
250 E. 1st St., Los Angeles, Cal.

日本人に親切な公證人
A. K. DAGGETT 代言人
事務所 電話 Douglas 40
20 Montgomery St., S. F.

鮮魚 食料品一切 海陸商會
桑港ラグナ街一六一一 電話ウエスト四五〇五

◎皮膚病專門男女症難全治保證 診信は總て日本文にて宜敷候 通察時間自午前十時至午後九時
醫學博士 劉日初
桑港グラント街五〇二
Dr. LOU YIT-CHO

こんなに變つた（七の四）
Mrs. L. Gibson, 12th & Edison St. Lo Tunta, Co. より來書に曰く『私は腎臟病に苦しみしがフオーレーキドニー錠を用ゐ直ちに効あり全快す』と此藥はリユマチス筋骨の痛みを治し腎臟を強くし健康狀態となす

フレスノの黃金時代！
金を儲けんとする人は
フレスノにお出でなさい
フレスノ日本人會農事部
フレスノ農業商業家一同

桑港旅館組合船客送迎事務所
404 Pacific St., S. F.

食料品雜貨 洗濯用品一切
デュポント商會
桑港ゲリー街一五〇三 電話ウエスト一八三六

觀光團員集募
十一月十九日さいべりあ丸にて出發御通知次第趣意書送呈す
桑港旅館組合主催第七回
本團員に限り出國税納附の必要なし
東洋觀光團 申込所組合旅館
井本旅館　防長旅館　日本ホテル　日米ホテル　北米旅館　田村旅館　近江屋旅館　加州ホテル　名古屋ホテル　南海屋
熊本屋　山口屋　福岡屋　富士ホテル　永本旅館　安藝ホテル　紀の國屋　ミカドホテル　エビスホテル　廣島屋

HOTEL FUJII
423 Maynard Ave. Seattle Wash.
妻君御親族御朋輩御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候
シャトル市メーナード街四二三
煉瓦造支館二棟タコマ及キヤマ旅館各二百室最新設
藤井旅館

和洋食料品雜貨商
株式會社 新亞細亞商會
桑港ポスト街一六五九 電話フイルモア二七九三

肥料 有効確實 各種販賣 桑港 小林商會

桑港櫻府電氣鐵道
桑港埠頭キールートより櫻府行 櫻府より桑港行毎二時間發車す
Key Route Ferry, Phone Sutter 2339
San Francisco-Sacramento R. R

尺八 獨習の友 一金一弗 內容曲譜大小廿二
●尺八販賣、三弗より五弗まで
●桑港 かすみ會
THE KASUMI KAI 1731 Buchanan St., S. F. Calif.

食料品雜貨
ます金商店
ポスト街一七九九 電話ウエスト四二七一

故大谷芳吉 葬送の際は御多忙中御會葬被成下且つ御鄭重なる御贈物頂戴致し難有御禮申上候一々拜趨御禮可申上筈の處乍略儀以紙上御禮申述候
七月廿三日 サクラメント
友人 北川久助 榮枝藤馬 李眞一 淺原菊次郎 隅田保吉 田中讓一 濱井回春堂 西島修藏

故辻坂慶次郎 葬送の節は御多忙中御會葬被成下且つ多分の御香奠御贈與に預り御厚情辱く奉謝候實は一々拜趨御返禮可申上筈の處乍略儀以紙上厚く御禮申述候
七月廿二日
父 辻坂震三　長男 辻坂猛雄　二男 辻坂□□　妻 辻坂みな　親戚一同　友人一同　和歌山縣人會

故長息儀葬送の際は御多忙中遠路態々御會葬被下且つ多大の香奠香花を辱ふし難有何れ廻禮可申筈に候へども萬一伺ひ漏れも有之可申と存じ乍略儀豫め以紙上御禮申述べ候 敬具
七月廿一日 フロリン
父 奥與一　母 同 利子　外 親戚友人一同

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH SUPPLEMENT
SATURDAY, JULY 24, 1920 No. 7434

Japanese Population Problems.

Following is a free translation of an editorial in Japanese, published in the Japanese American News last Saturday:

THE PARTY platforms of both the Republicans and the Democrats this year, broadly speaking, express the American attitude toward the immigration problem. As to Oriental immigration, they hold strictly to a policy of no further admittances. To those immigrants who already are in America, however, they purpose to give proper protection and guidance—to Americanize them and make of them good citizens and desirable residents of this country.

That is the general policy toward foreign immigrants in America; we may not be far from the fact in concluding that Americans in general are disposed to treat the Japanese in America in the same fashion.

Since the coming of the Congressional committee, which is investigating Japanese problems in California and other States of the Pacific Slope, the center of interest shown by Americans, not only of this locality, but the entire country, is in the increase of population. They would refuse to admit additional immigrants from the Orient and they do not wish any increase in the Oriental population. We therefore consider it is very necessary to explain to the Congressional committee the facts of the Japanese increase in population, telling why the birthrate is higher among Japanese than among Americans.

We contend that the Japanese population in America is decreasing annually, excluding the American-born Japanese. That is to say, the death rate of Japanese in the United States and the return of Japanese to their own country and to other countries is greater than the number of Japanese who are coming in.

Increase of the Japanese population, now the center of debate, is attributable solely to the Japanese born in America. If possible, it would be highly advisable to prepare exhaustive statistics on this subject, in order that there may be no opportunity for dispute. The question of the high birthrate among Japanese frequently is raised; an explanation may not be very difficult. A great many of the Japanese in this country are between the ages of 30 and 50 years, ages of greatest productivity in every direction; and many of the Japanese women are between 20 and 40 years. There are comparatively few elderly Japanese here. From a population standpoint, the Japanese in America are different from the ordinary peoples in that the Japanese are mainly producers.

It is quite natural and reasonable that the Japanese birthrate should be higher in proportion to population, just as they are more industrious. Among the English and Americans birth-control is practiced, and, to some extent, the "two-child" family system is advocated. The Japanese people do not indulge in that social "refinement"—which is another reason for the increase of Japanese population.

It is unnatural to take a stand against admitting the wives and children of Japanese in America. Enforcement would be a social calamity, affecting the sociological health of America.

Recently a well-known American advocated that a limit be placed on the number of wives of Japanese who should be admitted into this country, proposing a "ladies' agreement." This would be treating the Japanese as cattle.

Japanese in America should have their homes, as we have repeatedly asserted, in order that they might enjoy domestic life and contribute to the health of American society.

We make no doubt that Americans desire such a condition. But always there is the anti-Japanese party, seeking to put the screws on Japanese residents in America, whose only offense is that they are conducting their business peacefully. This attitude, it must be said, is entirely contrary to the sane stand of the general public. The anti-Japanese party disgraces fair-play, for which America is famous the world over.

As to the investigation of the Congressional committee and what bearing its findings will have on the attitude of Congress, we foresee only good. There isn't any especial "problem" except the one of an increasing population, which needs any particular explanation.

As we have told Japanese repeatedly in the past, there is nothing to be alarmed about in the furious assaults of the anti-Japanese party. All the Japanese in America need do is endeavor constantly to make of himself in every way a desirable resident.

The Scorers Scored.

WITH far more feeling than The Japanese American News, an ardent advocate of the rights of Japanese in America, would have displayed or felt, the Parlier Progress, on July 16, published a long editorial entitled, "The Japanese Question." Parlier is in Fresno county, in a district which has a large Japanese population. The editorial is a declaration of the stand of the Progress concerning Japanese in California. We publish excerpts:

The Progress has been asked repeatedly where it stands on the Japanese question, a question which with every passing week becomes of greater interest to Japanese-populated communities such as our own. Governor Stephens' recent communication to the State Department at Washington and the present hearing being held before a Congressional committee of inquiry at Sacramento have aggravated the situation to such an extent that it is well-nigh impossible for any editor in the San Joaquin Valley longer to ignore or longer avoid the issue.

It has not been fear that has kept the Progress from taking a stand in this matter—neither fear of our American readers who might take offense should we espouse the cause of the Japanese nor fear that our good friends the Japanese might retaliate by stopping their subscriptions to the paper should we champion the cause which has met with such great favor in the eyes of Senator James D. Phelan, William Randolph Hearst, V. S. McClatchy and others. * * *

Personally, we like the Japanese. We admire their industry, their thrift and their persistence, their ambition and their intelligence, their aggressiveness and energy, and their self-respect and democracy. We have a profound regard for Japanese art, and letters, religion and science. In many respects their culture is superior to that of our own American civilization. Economically they have been a decided asset to the San Joaquin Valley, although in a social way, due perhaps as much to the white man's prejudice as to their own diffidence to mixing, they have been of no great value.

On the other hand, and here is where reason and temperament give way to instinct, we have the white man's prejudice toward the aliens of another race as members of other races have toward us and this same prejudice in greater or less degree is common to every normal American. Can the Japanese be assimilated? Oil will not mix with water, say some, asserting as they say it that the Japanese question is not a question of racial superiority but is one of racial difference and variance. * * *

Rather for an appraisal of the Japanese situation would we turn to Sidney L. Gulick, a Japanese critic who is as rational and sane as he is kindly and tolerant, and who, while recognizing the problem that has been created, and the need for a settlement of the present situation has proposed to make the settlement in a manner truly brotherly and by a program of legislation that will secure for resident Japanese certain rights to which they are entitled and while prohibiting the influx of the present volume of Japanese immigration, will be prohibitory without being discriminatory in an offensive or unjust way.

We of the Progress are in doubt about this question of anti-Japanese legislation. While we are willing to concede, as most of the friends of the Japanese do concede, that an amount of moderate legislation in Washington is needed, we do not think that this legislation should be as extreme as some of those who urge it insist that it be. The ideals of internationalism, interracialism and sympathetic Christian tolerance all plead for moderation and temperance in the restrictions that our Government may decide to place upon Japanese immigration. And particularly must our Government treat justly and protect those Japanese who are already located in this country.

It is our hope that when the American State Department passes its regulatory Japanese legislation which necessarily must and will undoubtedly come, it will pass it in a broad and sympathetic spirit, inspired somewhat by the spirit of the man to whom Pharisees and Saducees were alike, and that in framing its legislation the State Department will be advised by men of the Gulick type and not by those of the intemperate habits of speech and of exaggerated statement who have done so much to aggravate and who have done so much to intensify a prejudiced attitude of mind among citizens of the white race which would not have been created had these gentlemen of the mop-like tongues and thimble-sized brains stayed at home and read and studied more and talked less.

THE INCOME TAX BILL.

Japan has a little citizen known wherever cartoons are drawn as "The Pepul." While he is suffering in the swelter of disturbed financial conditions, Premier Hara is presenting to the Diet a revision of the income tax bill.

The cartoonist remarks that the season has changed since Hara presented his bill last winter, at which time it failed of ratification. "He can hardly appear before the summer session in his winter clothes," says the artist.

GOOD CITIZENSHIP.

By PAUL S. GOYA.

GOOD citizenship is not confined to locality. The man who is a good citizen in one country is a good citizen wherever his lot is cast. His character is inherent.

Many excellent citizens of the United States are found in Japan, and they are always helping; in sports, in school, in mechanics, in religion, they are found, and ever welcomed and appreciated. There are also those, unfortunately, whose characters render them undesirable.

Our Japanese lack in sports, music and mechanics; but in agriculture they excel. Agriculture is their sport. Some who are not scientific toil long hours in harvest at low cost and subsist cheaply, to the dismay of their white competitors.

Why are Japanese in general successful at farming? They have learned the secrets of economy as well as science. For instance, a University of California professor told his pupils that rice fields must be prepared the same as bean, with plow, disc, harrow and slade. Of course, in this most farmers agree; but one who was practical asserted that much depended upon the quality of the soil. In case it was very rich, the extra amount of cultivation would induce such growth of stalk that the crop would fall over. Only rough preparation was necessary to prevent overgrowth.

Overgrown rice is usually 40 per cent wasted, because fallen rice cannot be harvested economically and advantageously. All these points, and many others, fully familiar to Japanese, must be considered.

In earlier days many adult Japanese came to the coast, spent the valuable working years of their lives here, earned a modest competence, and retired to the homeland, leaving as their bequest to this country the permanent results of their labor: swamps turned into productive lands and orchards bending with gold.

Are good Japanese a valuable asset to the United States? By their increased production of grains and fruits, do they not help to lower the cost of living? Do they absorb the rich soil for their strawberry industry?

No, no! On soil from one foot to one and one-half feet deep, discarded by the white men and abandoned to frogs, mosquitoes and malaria, they have developed the finest strawberry parks of the continent. The same statement frequently applies to grape, alfalfa and grain farming. Neither the science nor skill of the white man can parallel their success—dare I add to this, the everlasting, self-lubricating elbow service? If the patient toiler ceases, from what source will the luxuries he produced be obtained?

Is the Japanese farmer a useful citizen and a valuable asset to the United States? Answer, yes, or no.

ACTRESSES IN JAPAN.

Ten years ago a school for actresses was established in connection with the Imperial Theater of Tokyo. Before that all feminine characters were portrayed by men. But now, after a decade, the pendulum seems to be swinging back and the question is asked: Are actresses a success in Japan?

Okuni, a woman dancer of the great shrine of Izumo, founded the popular theater in Japan when she and her companions danced on a platform on the banks of the Kamagawa in Kyoto. After some three hundred years Kabuki, or the Japanese stage, appears to be an institution reserved for actors of the masculine persuasion.

An observer in Tokyo remarks that the difficulty with the woman actress appears to be that she, having no art of her own, was forced to imitate the mature art of the male player, with the usual result. Imitations, although flattering, seldom measure up to the standard of the original.

During the first years of their experience, actresses in Japan played freely and frequently with actors, but now they seem to be divorced. Apparently audiences prefer to see Kabuki actors performing in their own masterpieces, while the actresses perform in the newer plays.

The advent of the actress in Japan was an experiment. It was felt that as Western countries had actresses Japan should have them also. But Gordon Craig, in his book, "The Theater Advancing," says: "Woman is a continual threat to the existence of art in the theater and also to its successful management. To achieve the reform of the theater, to bring it into the condition necessary for it to become a fine art, woman must leave the boards."

But how would it be possible to suppress the creative faculty of woman in the sphere of the theater? It is argued that if a theater is to flourish in which the genius of man alone shall expand, then there must also be a women's theater to give expression to the spirit of womanhood.

Five hundred guests recently were invited at a luncheon given at the Imperial Hotel, Tokyo, in commemoration of the tenth anniversary of the establishment of the Imperial Theater's school for actresses. Baron Okura, chief director of the theater; Mr. Yamamoto, the manager, and Ritsu-ko Mori spoke.

Miss Mori is the leading actress of the Imperial Theater and has won the regard of the theater-going public of Japan's capital by her ability, beauty, hard work and enthusiasm. She said the school for actresses had been maintained in spite of much doubt and anxiety attendant upon such an undertaking. Now, she declared, the school is on a firm foundation and is receiving the sympathetic instruction of famous actors, with the result that it has come to be more or less recognized by the public.

The actresses, Miss Mori said, would like to know what the future holds for them. What will the management do for them and with them?

"We are in an awkward position," she declared. "We are not quite at home in the traditional Kubuki; neither are we best adapted for the purely European play. How we can best be utilized is a difficult but interesting problem for the management to solve. On the solution of this problem the rise and fall of the actresses depends."

That Japanese actresses are firmly rooted in the theatrical world Miss Mori seemed convinced. It is impossible for them to turn to other professions. She thought the management of the theater and its patrons should take that into consideration and should realize that the actresses have cast in their lot with the theater and that their fate is in the hands of the management of the Imperial.

A close rival of Miss Mori's is Kaku-ko Murata, an actress of much talent whose work at the Imperial always is full of interest.

A Tokyo reviewer accords the palm for weird acting in feminine roles to Onoe Baiko, a man. He scintillates in the role of a ghost, a fox, an insane woman, a spider or a female demon. Recently he gave a remarkable performance in Tokyo as a cat masquerading as an old woman in the play Gojusan Tsugo Ogi no Shukuzuke—"The Fifty-three Stations of the Tokaido-Fan of the Hotel Register."

BUSHIDO.

By DR. INAZO NITOBE.

CHPTER VIII.—(Continued)

THE present system of paying for every sort of service was not in vogue among the adherents of Bushido. It believed in a service which can be rendered only without money and without price. Spiritual service, be it of priest or teacher, was not to be repaid in gold or silver, not because it was valueless but because it was invaluable. Here the non-arithmetical honor-instinct of Bushido taught a truer lesson than modern political economy; for wages and salaries can be paid only for services whose results are definite, tangible and measurable, whereas the best service done in education—namely, in soul development (and this includes the services of a pastor)—is not definite, tangible or measurable. Being immeasurable, money, the ostensible measure of value, is of inadequate use.

Usage sanctioned that pupils brought to their teachers money or goods at different seasons of the year; but these were not payments but offerings, which indeed were welcome to the recipients as they were usually men of stern caliber, boasting of honorable penury, too dignified to work with their hands, and too proud to beg. They were grave personifications of high priests undaunted by adversity. They were an embodiment of what was considered as an end of all learning, and were thus a living example of that discipline of disciplines, Self-Control, which was universally required of samurai.

CHAPTER IX.

THE discipline of fortitude on the one hand, indicating endurance without a groan, and the teaching of politeness on the other, requiring us not to mar the pleasure or serenity of another by manifestations of our own sorrow or pain, combined to engender a stoical turn of mind and eventually to confirm it into a national trait of apparent stoicism. I say apparent stoicism because I do not believe that true stoicism can ever become the characteristic of a whole nation, and also because some of our national manners and customs may seem to a foreign observer hard-hearted. Yet we are really as susceptible to tender emotion as any race under the sky.

I am inclined to think that in one sense we have to feel more than others—yes, doubly more—since the very attempt to restrain natural promptings entails suffering. Imagine boys—and girls, too—brought up not to resort to the shedding of a tear or the uttering of a groan for the relief of their feelings—and there is a psychological problem whether such effort steels their nerves or makes them more sensitive.

It was considered unmanly for a samurai to betray his emotions on his face. "He shows no sign of joy or anger," was a phrase used in describing a strong character. The most natural affections were kept under strong control. A father could embrace his son only at the expense of his dignity; a husband would not kiss his wife—no, not in the presence of other people, whatever he might do in private. There may be some truth in th remark of a witty youth when he said: "American husbands kiss their wives in public and beat them in private; Japanese husbands beat theirs in public and kiss them in private."

Calmness of behavior, composure of mind should not be disturbed by passion of any kind. I remember when, during the late war with China, a regiment left a certain town, a large concourse of people flocked to the station to bid farewell to the general and his army. On this occasion an American resident resorted to the place, expecting to witness loud demonstrations, as the nation itself was highly excited and there were fathers, mothers and sweethearts of the soldiers in the crowd. The American was strangely disappointed; for as the whistle blew and the train began to move, the hats of thousands of people were silently taken off and their heads bowed in revential farewell; no waving of handkerchiefs, no word uttered, but deep silence in which only an attentive ear could catch a few broken sobs.

In domestic life, too, I know of a father who spent whole nights listening to the breathing of a sick child, standing beside the door that he might not be caught in such an act of parental weakness. I know of a mother who, in her last moments, refrained from sending for her son, that he might not be disturbed in his studies. Our history and everyday life are replete with examples of heroic matrons who can well bear comparison with some of the most touching pages of Plutarch. Among our peasantry an Ian Maclaren would be sure to find many a Margaret Howe.

It is the same discipline of self-restraint which is accountable for the absence of more frequent revivals in the Christian churches of Japan. When a man or woman feels his or her soul stirred, the first instinct is to quietly suppress any indication of it. In rare instances is the tongue set free by an irresistible spirit, when we have eloquence of sincerity and fervor. It is putting a premium upon a breach of the third commandment to encourage speaking lightly of spiritual experience. It is truly jarring to Japanese ears to hear the most sacred words, the most secret heart experience, thrown out in promiscuous audiences. "Dost thou feel the soil of thy soul stirred with tender thoughts? It is time for seeds to sprout. Disturb it not with speech, but let it work alone in quietness and secrecy," writes a young samurai in his diary.

To give in so many articulate words one's inmost thoughts and feelings—notably the religious—is taken among us as an unmistakable sign that they are neither very profound nor very sincere. "Only a pomegranate is he"—so runs a popular saying—"who, when he gapes his mouth, displays the contents of his heart."

It is not altogether perverseness of oriental minds that the instant our emotions are moved we try to guard our lips in order to hide them. Speech is very often with us, as the Frenchman defined it, "the art of concealing thought."

(To be continued.)

JAPANESE PROVERBS.

Fair faces need no paint.

* * *

Fairest gems lie deepest.

* * *

Fair words butter no parsnips.

* * *

Faith will move mountains.

* * *

False Friends are worse than open enemies.

* * *

Fame is a magnifying glass.

* * *

Fame, like a river, is narrowest at its source and broadest afar off.

* * *

Fancy may kill or cure.

* * *

Fast bind, fast find.

* * *

Faults are thick when love is thin.

* * *

Feasting is the physician's harvest.

* * *

Few words are best.

* * *

Fields have eyes, and hedges ears.

* * *

Fire and water are good servants, but bad masters.

* * *

First in time, first by right.

* * *

First deserve, then desire.

* * *

Fish are not to be caught by a bird-call.

* * *

Fish must swim thrice—once in the water, a second time in the sauce, and a third time in wine in the stomach.

* * *

Flattery sits in the parlor, when plain dealing is kicked out of doors.

* * *

Fools lade out all the water, and wise men catch the fish.

* * *

Fools learn nothing from wise men; but wise men learn much from fools.

* * *

Fools live poor, to die rich.

* * *

Forbidden fruit is sweet.

* * *

Force not the current of the river.

* * *

From hearing comes wisdom; from speaking, repentance.

The Value of a Smile.

By HENRY M. WYETA.

THROUGH experience I have come to perceive that smiling is an art which might be developed into a mighty weapon with which to fight the battles of life. The conviction has grown upon me, and finally has led to my establishing, in a hidden part of the world, a school of "Arts of Smiles and Etiquette." Hebe has been made presiding priestess of the institution, and a sales-girl in a department store and a beggar have been secured as teachers, and placed in charge of the Department of Smiles.

The curriculum of the school of "Arts of Smiles and Etiquette" includes several courses, such as "Theories of Facial Adjustment," "Ideal Reformation of Facial Configurations," "Fascinating Usages of Hat and Dress," "Ideal Transformation of Physical Types," "Art of Smiling Postures," "Art of Flirtation," and "Performance of Superhuman Smiles." The most popular course has proved to be that of the "Ideal Reformation of Facial Configuration." It is also the course whose accomplishment requires the most specific treatment.

The walls of the facial reforming room are decorated with iron masks of ideal types and assorted sizes of faces, among which are masks of Cleopatra, Lady Hamilton, etc. An abnormal face, after being softened by an application of a mysterious plaster, is pressed into a selected mask, and must remain there practically during a period of two years. A chief trouble is that the slightest exposure of the face to the sunlight renders the desired accomplishment impossible. The dining room for those taking this treatment is situated in a deep cellar, pitch dark. To this they descend twice a day, where they are permitted to remove their masks for the purpose of eating. They may exercise choice in the selection of their foods, but have to do this wholly by their sense of feeling. Somewhat exasperating, you say. But such is the price people must pay for the excellent results of the course I am giving.

But when the face is revealed at the expiration of its two years' compression, it comes forth a thing of beauty, renewed, and more attractive than any picture to be seen in the art galleries. Unsightly protrusions have been eliminated, ugly wrinkles have been smoothed out, unseemly depressions have been raised, and in their place something new—much like the change an experienced dyer can make with your silk waist. Indeed, carrying the likeness a step further, this is what might be called the "Facial Dye Works."

The transformation of the mouth and eyes is likewise brought about by the same mysterious process.

At the end of the two years' course in darkness comes the training in the art of smiling, which is under the strictest direction of the two experts employed for that purpose.

A graduating examination is imposed upon the best-trained by sending them to the harshest, crankiest and stingiest persons we can find, each to solicit a contribution of $50 to our institution by the practical use of the weapon of smiles. If they return successful, they are accounted worthy of graduation with a degree of M. S.—"Master of Smiling."

The success of the work has been such that all the graduates after their three years of training are being employed at excellent salaries and with little to do but smile and captivate their employer and fellow workers.

Report has it that one of the graduates learned of a prospective situation through a "Help Wanted" advertisement for a typist. In applying for a position she displayed the fullest measure of the smiling art—her acquisition of three years' training in my school. The employer did not ask for any reference, nor did he inquire as to her experience or ability.

"You will, I am sure, be able to give entire satisfaction," was his ready declaration. She thus secured the position without difficulty. Within a very few minutes she had shown her entire unfitness for the work she had been engaged to do, and was asked to leave the office. But at the critical moment she quickly turned to the boss and smiled again, her face glowing with the mysterious halo of charm. This caused him to decide: "Well, you might learn here for a while, but I shall have to get some one else who can do it better."

The one employed as her successor showed extraordinary ability as a typist, but was peevish and manifestly lacking in geniality. The lady of the smile was retained as an honored companion in the office and before many months had elapsed was given control of the entire office force.

Words are inadequate to a description of her smiles. Suffice it to say that after the opening of the office at nine o'clock a multitude of sweetheart seekers rushed in long procession to her desk on the pretext of something about business, but with the express purpose of seeing her smile. It is also a fact that on summer days, when her window was left open, a number of spectators stood facing her upon the opposite roof carrying a telescope on each eye.

To one of the full-course graduates, a humble, poverty-stricken girl, there came a piece of good fortune undreamed of by ordinary mortals. It was at a time when, little thinking of anything more than the unpretentious surroundings of her rustic life, a ruler of the celestial realm rode by. His attendant stopped to hail a man to make inquiry as to the road. His daughter, hardly out of her teens, then appeared in sight, and smiled and re-smiled as superhumanly as she had performed on her graduating day, and stepped forward with her well-dyed face. She gave directions with her wonted fascinating manner, punctuated with picturesque smiles and gestures. A few tresses of her uncombed hair waving across her cheek at the whim of the wanton breezes added to her captivating power. And when one strand, more wayward than the rest, fell upon her charming lips, it was as if Venus were blessing her through her mouth.

The most distinguished in the vehicle, forgetful of dignity and station, sprang before her, declaring her to be the most refined lady the human world had produced. After paying her his addresses still farther, he inquired according to the custom of his realm, "Are your parents in?" Her affirmative reply was emphasized by another outbeaming smile that also disclosed her shyness. Impelled by the fascination of which he was now a willing captive, he hastened to her parents. Saluting them courteously, the stranger revealed his identity and the purpose of his call. He was a ruler in the celestial realm, making his initial visit to the human world.

"I am just now," he continued, "entranced by the loveliness of your daughter. It is a great honor to be the parents of such a pleasing maiden." Before departing he invited them to bring her on a visit to his palace in the celestial gardens, and left with them a princely sum of money with which to prepare themselves for the visit and to defray the expenses of the journey.

After recovering from their dumfounded state of mind, the feeble couple set about adjusting themselves to the wonderful change that had come into their affairs. Suitable preparations were made for the journey. The journey itself was a continuous delight. Arriving at the ruler's palace they were received by him with royal honors, and entertained in a manner becoming one of his station. In due time the ruler's purpose in inviting them was fully consummated, and the young girl that came from a humble cottage in a nameless village, and whose chief accomplishment was the mastery of the art of smiling, became the queen of the celestial realm, with a promise of eternal happiness.

Newspapers far and near devoted large space to a description of the good fortune of the girl that knew how and when to smile, and to the effectiveness of the institution in which she had acquired this much-to-be-desired art. But they failed to disclose the location of the school.

Its fame was also carried from lip to lip, until a great number of ladies were frantically endeavoring to locate the so-called "Facial Dye-Works." Coquettes, under the impulse of intense feelings, aroused by the signs, "Ladies' Dye Works," inquired whether their facial configurations could be transformed into harmony with prescribed designs, only to be disheartened by the information that these "Ladies' Dye-Works" were for clothing only.

The disappointed, bitten by jealousy and despair, united in a complaint to the Court of Administrative Litigation against the unfair reign of the king. The point of the complaint was that the king had overstepped his rights in conferring upon an individual a kinder privilege than was warranted by the possession of a mere ability to smile. The king, escorted by scores of retainers, was haled to the floor of the Court of Administrative Litigation, consisting of one juror and twelve judges. Among the party was the queen in question, who was to be a witness.

After three days' consideration the case is said to have been decided as follows: "The celestial realm is outside of the human empire, and is therefore beyond the jurisdiction of the latter."

The case was thereupon transmitted to the celestial jurisdiction by the way of Jacob's Ladder, and examined anew by the court, consisting of two jurors and twenty-four judges, as to whether the act of the celestial ruler in taking as his queen a maiden from the human empire was a violation of equal rights.

The decision of this court reads:

"The celestial ruler has every right to select whomsoever he considers as worthy. Therefore, the act of the ruler neither transcends in the slightest degree the sovereign right of the king, nor is in any respect a violation of the equal rights of individuals."

But the case was further prosecuted as an infringement of the Royal Household Law, which reads in Article III:

"The wife of the king or crown prince must be chosen from among the Royal families of the celestial realm, except in the case that no person is found acceptable to the king or crown prince, the Royal council may, by a majority vote, approve of one from among the ordinary celestials, or even from among the terrestrials."

The decision of this tribunal was as follows:

"The court, after accurate examination, renders this decision: 'Inasmuch as the marriage in question was between a celestial king and a human being, and lacked the approval of the royal council, it is illegal. Said marriage is, therefore, in the opinion of this court, void'."

The queen, seated in the witness box, on hearing the decision, confidently and desperately determined to sharpen her weapon of defensive smile and remove the legal barrier to her continued enjoyment of her success. With charmingly dishevelled hair she appeared before the commanding judges, more than a score in number, with thousands of the multitude behind, and smiling with winsome amiability, addressed them with a result nothing short of miraculous.

"Gentlemen, my indebtedness to you will be inestimable if you will exercise in my behalf the great power you possess. I was recently married to the celestial king, and thus am in a position to enjoy with my descendants the eternal happiness belonging to you and your descendants. The royal household law must not be violated. Will you therefore convene the imperial families and make a sincere effort to secure the ratification of my marriage, a proceeding that is necessary to establish the legality of my marriage? Will you please?" The last with divine pose and smile irresistible.

All the judges present, who had heard of her amiability, but had not actually come under the mysterious spell of her charms, were instantaneously robbed of their judicial composure by her entreaty. Preparing to appeal still further, she undesignedly grasped with her right hand the lower part of her flowing hair. Her face, clothed with ineffable beauty, appeared in the midst of her hair swelling into waves by her unconscious manipulations in indescribable harmony. At her further appeal, "Will you please make it possible for me to remain with you, if you like me?" the judges at length burst into tears and unanimously and simultaneously responded, "All right! Sure!"

The Royal council went through the required legal procedure and ratified her marriage without any discussion.

Thus the jealous impeachment of the celestial king so long pending among the derelicts of the temporal world, ended in fiasco.

ロスアンゼルス（廿三日）

●日米人懇談

▲日米協會設立

下院移民委員の日本人問題調査後同所に出席せる日米人十數名はシテー倶樂部に於て晩餐を共にし食後バーカー氏を司會者となし各出席者の日米親善に關する意見の交換あり目下當市滯在中のスポット博士の如きは一層日米人の親交ならざる可からざるを力說し此際日米兩國人にて協會を設け本年の終りまでに加州に於ける日本人問題を十分研究し其の眞相を中央政府に送るべしと主唱來會者何れも之れに賛して散會したりと

●日米婦人の交歡

▲ガーデナ婦人會の催し

去る四日成立したるガーデナ婦人會にては二十二日午後二時同地ホールに於て日白人の親睦を圖るため集會を催したるが來會者非常に多く餘興として小島姉妹の合奏あり坂本太代子夫人は日本婦人の特長に關し大に講演なし日白人何れも十分の交歡をなし散會したりと

●帝原問題協議

帝國平原日本人會中南部エルセントロを中心として國境に至るまでの區域の人々は獨立日會を起し中央日本人會に承認の要求をなし來れるが之れに關してブローレーなる平原日會は目下同地に支部を設置しあれば獨立日會の必要あらず明年に至らば支部を獨立せしむべしと主張し數月來物議を釀しつゝあるが双方の有力家も此際斯かる問題にて喧騒すべき時にあらずとて漸く解決の曙光見わたるを以て二十二日午後ブローレー及び南部の代表者出羅し大山領事並びに中央日會幹部の人々と協議會を開催したるが其の內容は未だ本稿締切までは判明せざるが多分大山領事の提案たる本年內は表面上ブローレー日本人會の支部となし其實際に於て獨立日會同樣直接領事館と證明其他の關係を聯結し平原全體に亘る問題に對しては勿論本部たるブローレーの承認を經るものなるが南部に關する問題は自由に行動する樣なし本年中はブローレーの體面を尊重して支部の形式となし圓滿に解決するならんか

●グロサリー會社の損害　過日燒失せる日本ホールセルグロッサリー會社の損害は二万六七千弗の見積りなるも保險金二萬弗の加入あるを以て實際の損害は六七千弗にて濟むべしと因に同會社にては出火のため定期株主總會を延期なしたるが八月上旬東六街一二八六の假事務所に於て開催する豫定なりと

●アナハイム婦人會　アナハイム在留日本婦人は今回婦人會を創立することゝなり準備中なるが愈々二十五日正午より日本人會ホールに於て發會式擧行と決したるが當日は當市より琵琶及び浪花節等の藝人を招き盛大に執行する筈

●日本人街ボヤ　廿二日正午頃東一街二二九出口時計店ベスメントより黒煙濛々として吹き出で將に大事に至らんとせしが消防エンヂン驅附け直ちに消止めたり失火の原因は同建築內の支那人メーヤがギャスメーターの漏れるをマッチに點火し調べんとし導火したるやにて堀商會及び南加商會は何れも左右に隣接し居れる事とて一時は非常の騒ぎなりしと

●瓦斯燐大輸入　南加州に於ける瓦斯燐の不足は一般事業界に大惡影響を與へ居れるとは本紙に每度詳報せる處なるが之れが補充の爲め他州より輸入の計畫中なりしが今回スタンダードユニオン、プエンテ、ベンチユラ等各會社の手を經てオクラハマ州の油田地方より約一億二千五百萬ギャロンの瓦斯燐を向ふ十日間に輸入する由にて其の中三千五百万ギャロン地方用に他の九千万ギャロンは他方に廻すものなりと云へば南加瓦斯燐の不足も直ぐ緩和されん

●新聞紙盜人注意　近頃東一街三一四半山海うどん屋に配達せる日米新聞を毎朝盜み去る者あり其他にも同樣の申出多數なるに依り其の筋へ之れが注意を促し置きたれば速からず制裁を加へ得る筈なるが愛讀者の方にても充分の注意ありたし

●會議所の研究會　二十一日夜日本人會議所主催の研究會あり出席者三十餘名キャプテン・サウスウキ氏の米國商業會議所組織に就て詳細なる說明あり次に乾氏の加州排日の歷史的研究笹森中日書記長の人類の發源地と大和民族の由來及び堀愛次郎氏の外人顧客吸取策として日本人の考ふべき點なる演說あり十二時閉會したり

●中畑幹事讃港行　南加農業組合幹事中畑四郎氏は下院移民委員の審問會に材料を提供する用向にてサンディゴ市に出張したるが二十三日歸羅の筈

●矢島女史の出發　久しく當地に滯在中なる矢島楫子女史は二十一日の午後八時のラークにて桑港に向け出發したり

●高知縣人會總會　同會にては廿四日午後四時より一富士に於て定期總會を兼ね縣人の親睦會を開く

●東氏長女葬儀　モニタに於て農業を經營せる東仁作氏の長女は病氣中なりしが殆亡したるを以て二十二日本願寺佛敎會に於て葬儀を執行す

フレスノ（廿二日）

●意氣大に昂る

▲收穫期を控へたる農家諸君

中加の所謂黄金時代は既に到來した葡萄園もピーチランチも早いのはライブして出荷を始めて居る遅いのも此所一二週間內に收穫期に入るであらう同胞農業家中には聽て來らん多忙期に對し此處暫ばし體格調養の時と言ふ譯けでタウンの醫院に體格診斷を受ける人があり或は針按摩揉み療治且つはた灸を燒いて身を引締めてる人もあるが之等農業者諸君の勢は亦素晴らしいもので其語る所何れも何万何十万弗で四五年前とは丸で桁が違つて居る本年は酷暑の爲め多少葡萄が損んだにも拘らず値段の呼聲がよいものから更らに狼狽の模樣がない各種の產物中キャナリー桃は取分け本年の當り年で收穫豫想は英加平均先づ七噸を云ふ所罐詰會社は噸百弗で契約するから農家は一英加の桃畑より假に二十英加の桃畑を持つてる人は一萬四千弗のクラップを獲る勘定なので農家が勢ひづくのも決して偶然ではない中加の日本人農家は此秋何れも大にポケットを膨らかす事であろう

●西瓜の品薄　中加ダイニユーバーの西瓜は目下出荷最中なるが平年に比しクップ殆んど半減の姿なれど品薄の結果値段非常に宜敷一噸平均十九弗の見當なるが需要不足の爲め布市當業中にはターラック方面迄出張買入れに努め居れりと同地方は噸三十五弗の呼聲にて取引仲々困難なりと

●大野日幹出桑期　布日會大野幹事は在日主催の幹事會へ出席の爲め來廿六日出桑する由

●出生　ダイニユーバーの前田寛次郎氏夫人は昨日當地江田產院に於て長女分娩宇佐見と命名母子共に健在▲在セルマ熊本縣人岩村喜一氏方には去十八日長男出生一樹と命名し本日日會を經て屆出づ

●レーズン値段發表期　更に其後の報道に依ればレーズン會社の本期クラップに對する値段の發表は八月五日を繰上げて八月二日になる可しと云ふ

●葡萄園賣却　ツラレ町西方八哩の葡萄園百二十英加格安賣却すと希望者は布市オー街七二三ステパンタン方に申込む可しと

●日曜の野球戰　來る二十五日午後二時半布市ホームス運動場に於て體育會第一テーム對白人テームの野球試合ある由

●桃値段發表

▲昨年より一割五分騰貴

加州ピーチ會社は本日今期ピーチ包裝品の値段を發表したるが這は昨年よりの一割五分の騰貴なり九十十一月度包裝品の値段は即ち左の如し

六〇—十一オンス、ブリユー、リボン、ピーチ一箱八弗七十仙二四—二ポンド、ブリユー、リボン、ピーチ一箱八弗七十仙

一〇—五ポンド、ブリユー、リボン、ピーチ一箱十弗五十仙

オー・ビーなり又散荷脫皮及び脫皮せざるもの値段は六月初旬頃に至り決定すべし本期ピーチ値段の增加と生產者の受くる金額の關係に就てピーチ會社ニスワンダー氏の云ふ所に依れば昨年はクラップの三十乃至四十パセントが包裝品として販賣されたるが本年は生產高の幾何が此の形ちに於て賣上らるゝや不明なり尚ピーチ會社の本年ハンドルするピーチクップは三萬二千噸乃至三万三千噸に上る豫想なりと

●本期勞働賃金

▲葡萄摘採賃金は八月一日後發表

加州產業保護監督官の意嚮に基き本年八月以後に於ける當地方フルーツ勞働賃金に就きバレーフルーツグロア組合に依り左の如く發表されたり

（一）婦人カッチング・ピーチ百ポンド二十二仙

（二）男子八時間勞働一時間五十七仙半、八時間以上十二時間迄は一時間七十二仙

尚葡萄摘採賃金は八月一日以後に發表さるべし

●果樹園の增加著し　カーン郡に於ける現在富の評價格は一億一千六百五十三萬八千九百十弗にして最近一年間に於て一千五百萬弗以上の增加を示せり而して果樹園の增加は此一年間に於て殊に著しく葡萄園の生產力ある二千二百三十五英加レーズン一千八百英加ワイン葡萄三十五英加又未だ生產無きもの五千英加あり郡內自動車の數は七千三百九十一臺ベカスフィルド市の財產は九百九十八萬一千餘弗にて前年より九十萬弗の增加なり

●佛敎出張說敎　七月二十四日（土曜日）午後八時訪開敎使ブラックストン川口氏宅に出張說敎ある由

●歸國　苺方面廣島縣人井上治六氏七月廿六日桑港出帆春洋丸にて一歸國

○……中加小言……○

キングス日會の後任幹事は未だ極らない▲そうであるが須原君の注文に依ると▲耶蘇敎信者でないものキ郡在留同胞の多數と其鄕國を同じうせざる者バチエラーでないもの餘り若くないものでなければイカンと言ふ事ぢや▲うれでは試驗が容易にパッスしないであらう▲來月早々故國のた相撲さんがフレスノに遣つて來るさうだが▲世話人諸君は面倒ながら米人に對して恥掻かぬ樣に御注意なさつて下さい

オークランド

●亞市軍人團決議

▲下院委員に送る

亞市の合衆國在鄉軍人團第九號立法部は一昨日東洋人特に日本人を排斥すべき決議案を通過して日本人問題調查委員及び全米國に涉る在鄉軍人團に發送したる由

●麥嶺佛敎青年會　明廿五日午後七時より佛敎青年會は役員會を催し會堂購入の件につき協議する由なれば例會說敎は休會す

●武德會成立　既報の通り擊劍倶樂部は去る水曜夜梁川醫師宅に於て發起人會を開催したるが出席者數名協議の結果名稱は武德會とし王府佛敎會內の空地を借入れ新に道場を設立することゝなしたる由因みに道場費は發起人及有志家より寄附を仰ぐ由

●協友幹部會　來る廿七日午後八時より麥嶺協友會は幹部會を開催する由

●矢島女史の來王　本紙及各地方通信にて報道されつゝある矢嶋女史は明日午後十一時王府獨立敎會に於て講話ある由、一般有志及婦人の來會を希望すと

●寄附　太和商會主人江頭小太郎氏は歸國につき日會へ五弗王府學園に五弗を寄附▲城戶明治氏は郡立病院に三弗寄附▲麥嶺在住渡邊壽三氏は協友會共濟部に五弗寄附

●砂谷氏の來王　歐洲を視察し最近米國に着したる法學士砂谷智導氏は二十六日便にて歸國の豫定なるが昨日來王當支社を訪問本日スタクトン及櫻府方面を視察の爲め出發

ポートランド（二十日）

●移民調查と央州

▲央州は素通りか

加州を賑はしたジョンソン氏一行の移民調查委員が北行するに就ては央州にも無論た立寄りであらうと待構へて居た處海路桑港から沙港に直航で田駒、沙港附近では歡迎されるがポ市では直接お目見しする事が出來なからう

▲然し小委員の一分遣隊が來るかも知れぬと云ふ事だが何れにしても同胞側は公明正大あり之儘を御覽に入れるより外仕方がない、此の場合隱して飾つても何の效も無い次第だがさりとて同胞側もた氣に召さねば何とも致方も敢て見惡くい處を御覽に入れる必要もない其邊十分の注意が必要である

●ホテル組合總會　ホ市ホテル組合は十九日夜佛敎會に臨時總會開催、インサイドルーム問題及東洋汽船切符販賣の件を議したるが切符の件は組合に於て商業組合同樣一個の販賣權を有し其の取扱ひは同組合幹事之れを擔任する事となれり

▲春夏秋冬▼日本人農業者の今日の大缺點は契約不履行とバッキングの不正であるマーケットの山廣君も大に之れを憤慨して居たが時節柄排日の好材料にならぬ樣農業家は特に注意すべきだ▲增岡君は二女が一つはマサで一つがヨシだから今度其の長男を正義と命名したのは面白い▲佛敎會の新開敎師は來るのか來ぬのか內田さんからも本人からも何とも確報がないので心配の人もある

歸朝御挨拶
私事七月廿六日桑港出帆の春洋丸にて一時歸朝仕候處當地出發に際しては貴重なる紀念品御贈與に預り奉感謝候一々拜趨御厚禮可申上筈に候へ共行李匆々其意を得ず乍略儀以紙上此段御挨拶申述候　敬具
七月廿二日　フレスノ　苺組合員各位　井上治六

謝近火御見舞
本日午後近火の際は早速御馳付御盡力被成下有難く奉存候不取敢此段以紙上御厚禮申上候
七月廿一日　フレスノ市　增田德次郎　影山長吉　松田種楠　松本漢吾

御祝儀御法事御見舞御土產用　御菓子調進所　御小賣　柏屋　布市カーン街一四三〇

開業三週年記念　特別大安賣　一割五分引
弊店儀過去三ケ年間顧客樣の御引立に依り盆々繁榮致し候爲今月十日より向ふ十日間御厚情に對し特別大安賣致可く候間倍舊の御引立を願上候

●米　現金にて現價の一割五分引　麥嶺シャタック街二三九五　日本商會

◉葡萄園賣却　百二十英加各種葡萄農具建物一切至急格安賣却す場所ツラレ町西八哩　問合所 H. Stepantan 723 O St., Fresno, Tel. 2053R

グリン物買入　葡萄▲黑乾葡萄▲桃▲プラム以上各種　右現金又はエフ、オー、ビー何れにても高價買入御一報登上　セツチユル・フルーツ會社　日本人部買入主任　山田秀吉　Rt. A, Box 192-B Clovis, Calif.

自動車修繕並にツウイン・シテーツラクター格安販賣　マセド自動車修繕所 Great Highway at G, Merced, Calif.

葡萄安全器（雨手早摘）新發明一名ソーナイフ　米國專賣特許僅金二弗郵稅四仙片手で四遍りに切れ右も左も自由自在同じに使ひますから一人で八人前の仕事が出來る譯です　羅府販賣人佐藤德三郎山田惣平 134 Rose St., Los Angeles, Cal.

王府　マデソン街七百十番　電話王府八六三二　王府支社

王府第七街三七　電話王府七一〇　◉引延◉進呈　重富寫眞館

王府第六街三二一　電話王府二三六　◉引延◉進呈　駒井寫眞館

加州公認　橋本病院　215-6th Street Oakland, Calif.　入院隨意　大小手術及各種注射の需めに應ず　元帝國大學病院勤務ドクトル　橋本秀治　王府第六街二一五　（電話）レーキサイド二〇九〇

公認　齒科醫師（王府）　王府第八街五一八　齒科醫學士　矢幡富藏　（電話）オークランド二八六七、八一九

公認齒科醫　犬飼猛　王府第十五街五〇六番　ブラサビルデング五〇一、五〇二　電話王府三三六〇　住宅王府八〇二七

公認齒科醫　本間修二　王府第八街四一二日本館內　電話王府六六七一、住宅第八街一〇五

同胞醫院（武田醫院跡）　ドクトル　梁川健雄　王府アリス街六三六　電話レーキサイド四六四七

アートクラフト寫眞館　王府十三街四六七　電話王府一二二二　幸若牙須　櫻井久太郎

井手產院　王府マヂソン街七一六　電話レーキサイド四二四五

公認　武田產婆　王府マデソン街一五八〇　電話レーキサイド五三一五

▼病者の福音▲
◉調劑確實　弊店には加州大學出身の其道には永年の經驗ある白人藥劑師が居りまして確實迅速に調劑の御求めに應じます
◉白人醫招聘　何時でも御指定のドクターを招き親切叮嚀に通譯を致します日米兩國に熟達せる通譯も居りますから
◉日本賣藥　憂鬱な傑訪ぐ除災を應除する日本賣藥一切其他淸涼剤化粧品等も備付けてあります
◉書籍雜誌類　小說、講談、落語、浪花、諸雜誌も賣り捌き居りますから地方の御方は郵便で御注文下さい
加州公認　濱井回春堂藥店　櫻府第三街千二百〇六番　電話メーン二九三二ゼー　KAISHUNDO & CO. 1206-3rd St., Sacramento, Calif.

來れリードレー
▲鑵詰ピーチ七月十九日より開始
▲引續き葡萄摘採仕事は絕間無し
リードレータウン家持一同

食料雜貨　灣東商會　電話王府一二〇二及王府七九六

羅府　ホテル太平洋　山本彥太郎　121 S. San Pedro St., L. A.

1711 Teleg. St., Oakland Tel. Oak. 5258　イースタン洋服店　鈴木

加州公認　王府第廿街五一〇テレグラフ近　妊產婦收容設備完全　堀田產院　電話オークランド一六六四

公認　產婆　山崎シモ　王府第六街二二四　電話レーキサイド四五三六

日本八支那料理　美洲樓　羅府第八街四一五電北京一一四藤田

羅府支社　北サンピドロ街一二八　電話六六五七八

フェアホテル　公認產婆　平野秀子　羅府東第二街三二二　電六五一三七

東一街三三一半　醫師　須々木榮　電話一五〇五九　自宅一九一五四

小川時計店　羅府東一街二一八九〇　電話一三八四二

ドクトル　渡邊準哉　羅府イーグルホテル　電話二五九六八

高等御食事所　川福　羅府ウエリングトン街一〇九半　電話一五八五七

齋藤齒科醫院　東一街六〇六半（南海屋內）電六六七二〇

月藤齒科醫院　東第一街三四五　電話一四二三二

產婦人科內外科　古澤醫院　羅府ウエリントン街一一七　電話六三三五六

モネタ原醫院　電話モネタ三九二

佐藤琴子　日本內務省免許　電話フエヤオークス二三六二

平田篤次　パサデナ市西グリン街三一〇　ドクトル　電話六九〇四　自宅七〇六四

小林診察所　羅府南サンピドロ街一一五半

△中加產業社の營業種目
土地賣買、借地、一般農具取次、クラップ賣買、勞働契約、諸種保險、通譯事務、契約書作製、法律事務　ペーバー○ツレー
中加產業社　CENTRAL CALIF. INVESTMENT CO. 1507 Kern St., Fresno, California　布市カーン街一五〇七　電話五三三三　Phone 5333

江田產院　布市イ街五六三　電話四〇七八　自動車の備附あり　加州公認產婆　江田スノ

公認　倉谷鍼灸治療所　布市エフ街一〇三一　電話一九五三W

株式會社　フレスノ病院　ドクトル　村山三十五郎　村尾錬志　布市イー街九三五　電話メーン一三三

フレスノ　小此木病院　735 F St., Fresno, Calif. Tel. Main 1331

公認　宮田雄次郎　ミカドホテル內　電話六一九〇六　東第四街四五九番　ドクトル　宮田雄次郎

倉田齒科醫院　Tel. 15427 605 Turner St., L. A.

南加日本病院　醫學博士　唐木保藏　電話一四〇〇三　317½ E. First St., L. A. Calif.

松永多平　經育生命公認代理　電話一三二一八　424½ E. 7th St., L. A. Calif.

深澤齒科醫院　338½ E. First St. Tel. A3178

大正ホテル　羅府北サンピドロ街一二一八　電話ホーム壹壹五壹六

布市支社　布市エフ街九四九　電話三〇九四七

CC農產會社　農產物ホールセール委託販賣　C. C. PRODUCE CO. 1226 Tulare St., Fresno, Cal. Phone 4942

布市　部谷書店　922 F St., Fresno, Cal.

松本兄弟書店　1535 Kern St., Fresno, Cal.

M&T　日本人間唯一の家具店　家具店　布市ジー街八五一　電話一八四七　二五九六

加州公認　三浦產院　布市イ街一〇二五　電話三八二四エム

三浦チサ子　日本內務省免許　私事先般來產室並に浴室等を新に設け從前通り自動車をも備附け皆樣方の御滿足を得る樣相努め申候

株式會社　布市勸業銀行　▲保管箱貸料は一ケ年三弗以上　▲ケ年は四分　日本送金一百弗以上無手數料　小口當座通帳無利息（定期一）　▲正金銀行預送金は瀛船出帆前三日まで御申込が確かです　▲營業時間日曜祭日の外每日午前九時より午後三時土曜午前限

鍼灸專門　內務省免許布市イ街一〇一九　胃病痛氣脚氣リユマチ　木村　闞直太郎　フレスノ公認鍼科　白山紀一　カーン街一四三五

別府温泉　湯の花　自宅溫泉入浴原料　代價一箱六回分一弗　米國一手販賣所　大黑商會　羅府東二街三〇五　Daikoku Co. 305 E 2nd St., L. A. Cal.

篠原眼科醫院　107½ East 1st. St., L. A. Calif.　Telephon 15745 Res. 65137

セントラル魚市場　サンピドロ港　電話八三四　CENTRAL FISH CO P. O. Box 516 San Pedro, Cal.

養老保險　ニューヨーク生命保險會社　本部公認代理　小野助四郎　電話エフ五一七三　632 Maple Ave., Los Angeles, Cal.

溫泉　萬病に特効ある　ホワイトポイントラヂユーム　羅府サンピドロ港ホワイト・ポイント　主人　田上兄弟　P. O. Box 975 San Pedro, Calif.

Sato's Book Store 341½ E. First St., Los Angeles, Cal.　新刊書籍到着　東一街三百四十一半　佐藤書店　電話一九六〇九　住宅六一八一二

太平洋沿岸魚市場　サンピドロ港　電話二六六　電話九〇七　Pacific Coast Fish Co., P. O. Box 263 San Pedro, Cal.

サクラメント（廿三日）

調査委員に明快の答辯

▲排日記者流石に嘆賞

前回移民調査委員の一行がルーミスを訪ふたる節に同地に農産會社を經營する酒井藤太郎氏主に應酬し同氏自ら執筆せる興味津々たる記事となりて本紙上に發表されたるが委員一行中の數名は去る廿一日再び同地を訪れ四十英町の果樹園を所有經營し兼て同地現日會幹事たる眞壁信藏氏に就て質問するところありたるが同氏は

『日本よりの移民禁止さるゝも米國の希望とならば又止むを得ずイニシエテーブ若し通過せば吾々日本人に不利なるは論なし何故に日本人の借地權迄褫奪するにや我等は最も忠實に農業を經營しつゝあるは一見して了解さるゝならん故國に送金すとの非難は當らず投資の機會を與へよ現にバーデン會社の株を所持する者多し出生率の多きは共に壯年者なるが故なり吾等は米國を愛す云々の答辯振りに對し鷺を烏と報じ白を黑と書きたいが山々の英字紙記者も流石に其回答の要領を得たることゝ明斷なる頭腦を嘆稱し居るが面白し

借地權延長運動費

▲割戾金の問題落着

不老林日會に於ては借地權延長運動費割戾金を經常費に編入し一般會計として本年一月の定期總會にて報告せしが物議を呼びしも調停者ありて其後種々交涉の結果去る十八日同日會より幹事岩鶴氏及び紀伊野氏委員として同日會管內の十五區人々を會見し謝罪の意を表したれば割戾金は希望に應じ更めて日會に寄附することになり半歲に涉りし係爭事件も目出度く終焉を告げたりと關係者小林愛次郎氏より通知ありたり

●日白婦人茶話會　當市日本人基督敎會に於ける米化運動事業の一端として白人女子青年會幹事カックス孃及び二名の白婦人と九名の日本婦人とは昨日午後二時より五時迄の間に宮川常三郎氏の住宅に於て日白婦人の懇親茶話會を催したるが頗る有益なる會合なりしと

●感謝狀を保管　ヨーロー郡より米國陸軍に出征したる谷本竹八なる邦人に對して徵兵係官より感謝狀を河下ウォナッグローブ日本人會宛にて郵送し來り保管しあれば住所通知されたしと

●果物賣却法規違反　メリスビルのケー青木なる人は使用に堪へざる林檎をエス小川なる人は日燒けのアニオンを賣り込めりとて園藝委員よりの訴へにより當市オブライヤン判事より逮捕狀を發せられたり次週中に事件の審査あるべしと

●河下日幹確定　ウォーナッグローブの河下日本人會にては豫て幹事募集中なりしが今回塩湖市ユタ日本人會幹事たりし河台宗一氏來任することに確定したる由なり

●大藤氏退院　當市シスター病院に入院し痔疾治療中なりしウォナッグローブの大藤勇氏は全癒して退院當分第五街の愛知縣人會に止宿靜養する由

●盜難　グライドの農業家鈴木喜代松氏ランチにて農業用シーツ一枚盜難に罹りしがバレー種物會社のサインある分なりと

●寄附　田沼ツネ女より日本人基督敎會へ三弗を寄附す

スタクトン（廿三日）

救世軍の凱旋

過般ウォナッグローブを中心としてコートランド、アイルトン等に於ける賭博撲滅運動に參加せし當市救世軍小隊長尾崎中尉以下は多大の成績を擧げ一先づ歸營せり

●切開手術　ローダイ在住廣島縣人宮本龜槌氏（四十五歲）は盲腸炎に罹り去る十九日ダメロン病院に於てドクターグメロン並に內田ドクターの立會にて切開手術を受しが經過良好なりと

●故緒方氏の葬儀　多量の劇藥を無意識に飲み遂に死亡したる前桑港大飼商會店員たりし福岡縣人故緒方辰次郎氏の葬儀は昨廿一日午後二時半當市ボーブフエント・スミス葬儀社に於て執行せしが多數の會葬者ありたり

●石川ドクターの公認　加州醫術開業試驗受驗中なりしドクター石川榮助氏は廿日同試驗委員より公認の通知に接し廿一日出頭し公認證書受領せし由にて從來の通り東ワシントン街二八の事務所に於て午前十時より午後八時迄治療の需に應ずる由

●倉敷料值上げか　當市に於ける倉庫業者等は聯合して鐵道監督官に對し倉敷料值上の請願を爲せし由にて其理由とする處は目下普通使用人二十五パーセントフォマン三十六パーセントの賃金の引上を爲し其他一般の材料騰貴せる爲めなりと

●汽車に轢かる　廿一日午後三時十分サクラメント街ゼファソン街鐵道踏切りに於て一白人エスピ鐵道列車にて轢れたるが同人はベカスフィルドの住人にして肩骨頸骨等を挫き居り直に應急病院に送られたりと

●柴田ミセスの退院　市內柴田ミセ主人柴田三徹氏妻女は婦人病に罹り日本ホスピタルに於て切開手術を受け引續き入院治療中なりしが廿日退院せし由

●死亡　和歌山縣人中尾榮藏氏長女睦子（八ケ月）は母親出產後死亡せしによりフエヤオーク某白人に托し養育中なりしが病氣に罹り二十一日午前三時四十分遂に死亡せし由にて葬儀は二十二日午前十時當市佛敎會に於て執行の筈

●舊劇開演　來る廿八、廿九、三十の三日當市に於て川那邊氏の請元にて紀の國家大一座を聘し例の朝日座に於て舊劇開演の由にて其藝題左の如し

▲初日　赤穗高田馨（部安兵衞太序より仇討まで、切、菅原傳授手習鑑（寺子屋の段）

▲二日目　播供養文覺上人渡邊橋より瀧の場迄、切、彥山權現誓助太刀（六助住家）

▲三日目　春日之由來眞辨杉、切、關取千兩幟（猪名川家の段）

ローダイ（廿三日）

賭博防止委員會

來る二十四日櫻亞日會事務所に於て賭博防止委員會を開き浮浪漢の取締り並に支那賭博場出入者に對し具體的制裁法を講ずると同時に市當局と協力して之が絕滅を期する筈なりと

●葡萄の好況　當地方に於ける食卓用葡萄並に釀造用葡萄は昨今購入者多數入り込み甚だ活氣を呈し來り目下酒葡萄噸六十弗以上食卓用葡萄はパインにて一タレート一弗の買相場にして天上知らずの模樣なりと

●敷島團勝つ　去る十八日櫻府に遠征し同市サクラ野球團と試合を爲したる當市敷島團は五對四のスコアにてサクラ軍を敗り同夕刻勇ましく凱旋したり

●佐藤氏子息死亡　アキヤスボ在住愛知縣人佐藤市太郎氏長男茂氏は腦膜炎に罹り須市病院に入院中去る十七日遂に死亡せしにより同十九日須市佛敎會に於て葬儀を營みたる後火葬に附したりと

●上山氏夫人着京　前日幹上山氏夫人は去る六月八日桑港發のコレア丸便にて子女同伴歸國せしが同廿五日東京なる實家に無事到着せし報ありたりと

●出生　ローダイ在住愛知縣人久米園七氏妻女は廿日北原產院にて長男をリンジ島二十四番熊本縣人前田千代吉氏妻女は廿一日長女を北原產院に於て出產何れも母子共健全なりと

御禮廣告

長男正人儀病氣にて櫻府シスター病院に入院療養中は一方ならざる御配慮に預り且つ御多忙中態々御見舞に預り御厚情辱く奉深謝候以御蔭本日全快退院仕り當分の內櫻府宇土屋方に滯在休養可致候間乍略儀以紙上厚く御禮申述候　敬具

七月十五日

アイルトン　松村萬次郎

御禮廣告

七月十八日當園出火の節は御多忙の處急速御加勢を添ふし尙は多大の御見舞品を賜はり御厚情の段難有深く奉感謝候實は早速一々拜趨御禮申上ぐべき筈の處混雜中尊名御伺洩れも有らんかと存じ乍略儀不取敢以紙上御禮申上候　敬具

バカビル　古屋泰治

類燒御禮廣告

去る廿一日小生等住居類燒の災に罹り候節は諸君の御救助に預り其上に種々御見舞等御贈り被下重々の御厚情を賜り深謝の至りに候目下取込中に有之乍畧儀以紙上御禮申上度如斯に御座候

大正九年七月二十二日　メリスビル市

杉本新助　吉田清

御禮廣告

去る二十一日左記名のもの類燒の災に罹り候際は諸君の特別なる御助力に依り御蔭にて損害も少なかりしは不幸中の幸と深く奉謝候尙又諸彥より御見舞物等を御贈與被下重々の御厚志有難く拜受仕り候實は一々拜趨御禮申上度く存じ候へども目下取込中其意を得ず乍略儀以紙上御禮申述候

大正九年七月廿二日　メリスビル市

テー・エム商會　村山定吉
東洋ホテル　假家藤太郎
吉川ルーミングハウス　吉川實教

◉節入講談◉　各地巡業口演仕るべく候に付き御贔負の程願上候　節入り講談獨創口演者　雀家正樂

ポテトー　アニオン　仲買商　スタクトン　東ウエバー街三〇　ガーリントン商會　電話四五六四住宅四八六九J　W. D. GARLINGTON & CO. 30 E. Weber Ave., Stockton

櫻府支社　第四街千四百十四番　電話メーン三〇六六

廣島商店　和洋食料雜貨　櫻府エム街三〇九　電話二七一〇ゼー

朝日時計店　第四街一二一九　電話二八七三R

櫻面都魚店　第三街一二一九　電話三五七八ゼイ

Asahi Noodle Co. 215 M St., Sac'to　トンメラクサ　旭　製造所　饂飩　素麵　蕎麥　支那饂飩　玉子入饂飩　品質優良　手紙の御注文に對して特に割引致ます

吉村商店　和洋食料品　櫻府エム街四〇一　電話メーン一二三七

丸三商會　切花及寫眞機　櫻府第四街一二二二　電話メーン四三七七W

降矢時計店　櫻府エル街日本座向側　電話メーン二八五一W

有名商會　櫻府第三街一一二八　電話メーン三六一一

日本鳥屋　第四街一一三〇七　メーン三一一一W

みかど魚店　櫻府第三街一一二四　電話三七八六　鮮魚、野菜其他罐詰類卸小賣

保險　末本　櫻府エヌ街　三三二〇

保險　ウエスタンステート　河本源吉　1309 4th St. Sacramento　電話メーン四〇三八M

隆辻便利社　櫻府四街一二〇五　電話メーン三一一五W　住宅電話四六八二W

谷本商店　櫻府第四街　和洋食料品卸小賣

大家具商會　櫻府六街一一二六エルとエムの間　電話メーン三八六七W

名出病院　加州公認　櫻府第四街一三一一　電話メーン八九七番　ドクトル メヂシン　沖田楠之進　內外科、小兒科、產婦人科　住宅電話メーン二九六〇W

石川醫院　須市東ワシントン街二八　電話 醫院三一五四J 住宅四九六三W　診察時間 自午前九時至午後八時　◎產婦人科　◎內外科　◎泌尿科　加州ネバダ州兩州公認醫　ドクトル　石川榮助

公認　佐藤齒科醫院　櫻府第四街一三〇八 蘇葉館二階　電話三五八一セー　齒科醫學士　佐藤廣吉

認可　唐津病院　櫻府エム街二百廿八番　電話メーン二〇一一　手術注射入院往診治療臨時內科外科皮膚病小兒科泌尿科產科婦人科眼科耳鼻科咽喉科　シアテルミ精神感療老人病科　加州公認クリニカルラボレトリー　ドクトル　唐津德光

唐津病院附屬　病源研究所　健康診斷、妊娠性別、小兒智力推定、手術適否檢查、急性慢性病試驗遠方に通信應答

加州公認　石井醫院　櫻府第三街一一二七　東京帝國大學醫學士　石井銀佐　電話メイン六三三

加州公認　村上病院　櫻府エム街三一四番　電話メーン三六〇五ダブリュー　▲內科▲外科▲內臟外科▲婦人科▲肛門科　元帝國大學病院在勤　ドクトル醫學士　村上利通　住宅第五街PQとのアレー五一二半　電話架設中

鍼灸採療治　エヌ街四百八番　內務省免許日本鍼灸研究會卒業　根立院　櫻府エム街四三一　電話メーン五〇三〇W

保險　武田正夫

公認　吉田齒科醫院　櫻府第三街とエムの街角　電話メーン一三九九ゼー

精神療法　サンノゼ市北第五街五六五　電話サンノゼ九一四

東西商會　櫻府第四街千二百十四番　呉服雜貨及食料品　電話二六六七W

紀伊商店　和洋雜貨、金物類　エム街三〇〇　電話メーン七七一

櫻府公認產院（いろは順）　岩井きよ　第三街一四一六 メーン三五八五J　蟹江嶋子　エヌ街三一四 メーン二〇二一R　山浦なつ子　第四街一四一〇 メーン三六八六W　小林ひろ子　第四街一四〇三 メーン四八三　宮崎アイ　第四街一四一八半 メーン四二一五M

杉本事務所　土地賣買通辯事務　メリスビル市二街デー街角　電話二五一　住宅東洋旅館內

崎山商店　櫻府エム街三〇一番　電話メーン三九八

松野醫院　櫻府エヌ街四二七　電話メイン五一七〇J　住宅第四街一一二〇四　櫻府日本銀行階上

麴　味噌製造所　電話二九三三セー

いなか商店　食料品金物類　櫻府第三街千二百十五　電話メーン三一三一

下島寫眞館　櫻府日本銀行階上　電話メーン三一一五セー

吉田寫眞館　第四街一二一七A　電話四三七七セー

日本寫眞館　第三街一二〇六　電話三三二三セー

黑河寫眞館　櫻府第三街一一三三　電メーン五二四七W

竹本ドラッグ　櫻府第三街一一二五　電話メーン一二六五W

サクラ藥店　櫻府エム街三二四　電話三七八一　藥劑師　吉田勝太郎

酒井藥店　櫻府第三街一一二五　電話メーン四九三一Y

イーグル病院　イーグル藥店　櫻府第三街一二一〇　電話メーン二九四七R

岡山旅館　櫻府エム街四二六（五街の角）　電話メーン一五二〇

川村旅館　櫻府エム街三〇九　電話三二八八　川村伊太郎

大北館　櫻府第四街一一二六　電話三八四五R

肥後屋旅館　第三街一一二二　電話三〇二八　新居兄弟

備州ホテル　櫻府エム街三一C　電メーン三六六J　山田

日本館　櫻府第四街一一二七半　電話メーン一二一一M

西村旅館　第四街一三二四　電話二三五七W

日の本旅館　エム街三二三　メーン三〇一四

廣島旅館　櫻府日本町八　電話メーン五二四七J

佐藤靴店

靴　櫻府角屋　津田商店

河下　友岡旅館　ウ村郵函一〇五　コートランド二九四

須市支社　電話三五四六

若梅醫院　須市日本旅館內　醫學士　電話七二九

中島施術所　元日本人病院跡

衞生的好飲料　スターソーダ水　櫻府エム街三百十三番　電話メーン二一八七

◉特價大安賣　◎男女小供服一切　◎婦人帽いろいろ　◎御仕立物何でも致します　須市南エルドラド街二四二　石川商店

入院隨時　本院の療法は…　公認　西野療院　櫻府第四街千四百一番　電話四九七アール

來れターロック　キャンロープ　果物　トメトは未曾有の豊作　ピースウオークは腕次第　デーウオークは高給を支拂ふ　スタニスロース郡日本人會　農事部

サック　古サックもあり　各種肥料　櫻府エム街三百十二　電話メーン三八八一ゼー　米問屋　井上商會

▲公認電氣工　バッテリー工場　櫻府エル街四二一　電話メーン二一〇三ゼー　長尾

O.K.家具金物商店　櫻府エル街四二七　電話メーン一五六六

公認　ライオン藥店　專門醫紹介及通譯、診察室設備完全　櫻府第四街千二百十七番　電話メーン一五六六　店主　本家

櫻府　第四街とエル街角　株式會社　日本銀行　電話メーン一〇七八

早石醫院　須市南エルドラド街四四　電話九〇四　住宅電話三三六二　央加南州公認內外科醫　ドクトル メヂシン　早石實藏　J. Hayaishi, M.D. 44 S. El Dorado St., Stockton, Cal.

タフトホテル　室內淸潔、設備完全　スタクトン市南センター街一二四（電話三六四〇）　御來市の節は是非御投宿を願ます　麻生德三郎

加州公認　內田醫院　須市南エルドラド街二二八 艱岡屋內　電話一五九四　▲內科▲小兒科▲外科▲泌尿科▲眼科　醫學士　內田貫助

公認　岡本醫院　須市日本人會階室（電話八五三）　▲外科▲內科▲婦人科▲小兒科　ドクトル メヂシン　岡本力一

八千代商店　食料品、雜貨、果物商　須市センター街三〇四　電話九一五

糀賣出し　食料品雜貨商　高橋商店　333 S. Center St., Stockton　電話三三九四

佐藤商店　食料品、雜貨類、大勉強　電話一二五五　110 W. Washington St., Stockton, Cal.

須市蓄音機店　シンガー裁縫ミシン販賣　6 W. Market St., Stockton, Calif.

工藤齒科醫院　日本藥店二階（電話二三二五）　公認齒科醫學士　工藤盛勝　公認齒科醫學士　中原久一

公認　北原產院　須市南センター街一三七　電話一一九一W

貸自動車　須市東ラフエット街二七　清水　せんべい製造販賣（電）二四七五

國井時計店　金銀寶石、時計修繕　質店　40 E. Washington St., Stockton, Calif.

須市旅館業組合　パナマホテル　日本旅館　豊明館　尾張屋ホテル　加州館　ヨセミテ　中島ホテル　南海屋　グランドホテル　福岡屋　安藝旅館　サンオキン　サツマヤ　紀州館　錦帶旅館　ミカドホテル　廣島屋　肥後屋

公認　久世產婆　須市南マデソン街二一〇　電話二九〇三ダブリュー

江頭豆腐店　東ラフエット街二九　Tel. 4408W

津玉商店　和洋食料品　電話八七　323 S. Center St., Stockton, Cal.

◉貸自動車　須市南センター街三一〇　電話一九八八　平榮太

西村產院　須市南マデソン街一一九　電話二〇三ゼー　自動車の設備あり

島田豆腐店　須市南エルドラド街三二〇　電話一〇八二

木村ミシン店　須市東ラフエット街四四　電二二五五W

竹本魚店　東ワシントン街二六　電話一九五六

材木屋　キャンプ用木材を格安に御需めに應じ候最も波止場に近し　シムソングレー　Simpson-Gray Lumber Co. 124 W. Weber Ave., Stockton　電話スタクトン二四

渡邊商店　質屋　時計寶石類　シンガーミシン

花屋　加州花店（電一一四二）　7-9 N. Calif. St., Near Main

金物・STOVE・厨具　THE RUHL-GOODELL CO.　315-319 E. Weber Ave., Stockton.

須藤文明堂　書籍雜誌　33 E. Market St. Tel. 329

安樂心　支那料理　室內淸潔▲原料鮮良▲諸君歡迎▲宴會並出前▲電話一七六九

ローダイ商店　電話ローダイ八五　P.O.B. 121

ヴァレー材木店　Valley Lumber Co.　▲各種材木大勉強▲日本人諸君を歡迎す　樓臺東エルム街洗濯所向側

廣島屋　御旅館御料理　電話ローダイ四四　20 N. Main St., Lodi, Calif.

宮島商會　雜貨食料品商　ローダイ市北メーン街六番　電話九三

中國商會　南メーン街　郵函二四五　食料雜貨

眼科　內外科　天野醫院　佐市北第四街六二　電話サンノセ一〇九九　新注射、神經痛、結核其他　大阪醫科大學醫學士　天野賁

榮喜洋服店　男女子供用服帽子其他一切　サンノセ市ジャクソン街一八七　電話サンノセ四二七

パーラント葬儀社　自動車使用諸事懇切取扱　イーストレーキ街三五　電話六三二ワイ　Burland Undertaking Co.

村華

石野寫眞館　晝夜共寫眞撮影　佐市ジャクソン街二二一　電三五四八ジェー

木村保險事務所　ニューヨーク生命保險會社代理　サンノゼ市北第三街五五六

流るゝ雲（二三五）

寺澤琴風

魂（13）

『荒木さん、私は全く、辻さんの事は諦めました。』

澄み切つたやうな八重次の眼には、涙はなかつたが、荒木から受けた盃を持つた手は、更に大きく顫へた。

荒木は同情するやうな眼で八重次の顔を見た。

『荒木さん、貴方だから、私何も彼もお話してしまひますが、私が斯う、辻さんの事を諦めるまでには、隨分泣きましたわ。そして隨分考へました。一時はカッとして、お聞及びでもございませうが、鶴子さんを殺さうとまで考へました。私は辻さんと夫婦になる事が出來ない位なら、死んでしまつた方が好いと思ひました。けれども死ぬ事さへ出來ません。うして私は一生斯うした不幸な運命の流れに捲き込まれた人間なんだと、さう考へました。でせうから私は、辻さんの事を思ひ切つて、これからは尼さんのやうな心持で、暮へして行かうと考へました。』

『さうかね、よくさう決心してくれた。君は偉い。僕は感心した。よくうこまで突きつめて考へた。偉い。』

『否ね、ちつとも偉くはありません。私は我の強い女だと、自分で自分の心に、愛想が盡きた時、私はハッと思つたのです。それから私はヂッと考へました。そして私は、辻さんの事を諦めたんです。』

『ぢや八重次君、君は辻と鶴子さんと、結婚するやうな事があつても、君は辻を恨やアしないね。』

『ねッ。ぢや、辻さんは、愈々鶴子さんと結婚なさるんですね。本當に。』

八重次は燒け爛れた焰の劍でグッと心臟を刺し貫かれたやうに感じた。

荒木は、八重次の其の心の動搖をはつきり知つた。

『荒木さん、本當ですか。辻さんは、いつ鶴子さんと結婚なさるんです。』

『八重次君、君は今、あれほど立派に、辻の事は思ひ切るッと言つて慨きながら、やつぱり未練があるんだねね。』

『ねゝ、其りやあります。私だつて生きた人間ですもの。けれども私はもう、なんとも思ひません。私は尼さんになつたんですもの。大丈夫ですわ。私は辻さんと鶴子さんの幸福を、心から祈りますわ。』

『さうか、其れで僕は、やつと安心した。ぢや僕は失敬する。それから何か僕で役に立つ事があつたら、及ばずながら、今後誓つて、君の力になつてやるかも、遠慮なく、さう言つてくれ給へ。これが僕の宿所だ。』

と荒木は、名刺を食卓の上に置いて立上つた。

『まア、お宜しいぢやありませんか。私が辻さんの事を思ひ切つたまでの、私の心の變化を聞いて下さいませんか。女の癖にくどくどしくて、お厭でせうが、其の話なら、又ゆつくり聞くとしやう。實は外にも用事があるから。何うも御馳走になりッ放しで濟まないね。』

『否ね。』

突然、八重次の顏色が、サッと變つた。

『ぢや失敬。』

荒木は其の儘歸つて行つた。

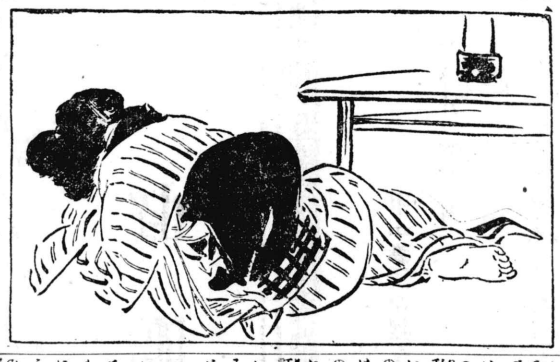
同時に、八重次は子供のやうにワッと聲をあげて、泣き伏した。

姐やのお園は、座敷を一寸明けたが、入り兼ねて、其の儘障子を締めた。

うして、暫らくして、八重次は泣きやんだが、いつまでも顏を擧げなかつた。

『人間風、みんな薄情だ。世界中の人間はみんな薄情だ。』

八重次は、さう心に叫び續けてゐた。



◆日蔭に暮らす

漆間つぎ子

（九）訪問の記

から、『生れぬ前には、小川辯護士か友人のところへ籍をつけやうかといふ話も、小川氏も友人との間にありました。一方山田は、私が出産の知らせかたが見舞に行つて、その話をした時には判決の極まるまで待つて貰ひたいといつてをりましたが、さう何時までも屈を怠つてゐる譯にはゆかないからと申しますと、それでは私の方へつけることにしませうといふので、その屈書を山田に渡して來ました。それは山田の印さへ捺せばよいのですが、その印は小川辯護士が預かつてゐるので、屈書は小川辯護士の方へ廻つたことゝ思ひますが、私の方へはまだ何の通知もありません。その間に、小川辯護士や友人の間にいろゝ意見がありまして、どうも捗取りません。小川辯護士の方では、戸籍を山田の方に移してしまふと、同時に子供も引渡して、つぎと子供との縁を斷つのではないかといふことを頻りに心配してをりましたから、「たとひ籍はどうなろうとも、つぎとみもとは眞實血を分けた母子である、つぎが子供を育てたいといへば私はうれを止めることはできない。また先方に子供を育てるものがないのに、無理に離すことはできない。何れにしても、子供の安全を計てやりたい」といつたので、安心したやうでした。』

話の間に、つぎ子さんは香の高いお茶を勧めて下さいました。

うして、父君の蔭にしよんぼりと俯向いて坐られました。

▲孤兒院の世話

でもさせて▼

『山田の母と從兄弟の山田憲明が新潟から上京して、何れとも極める筈です。多分山田の兄にあたる人のところへつくだらうと思ひます。この人は、山田の父、逢ひの兄ですが、賤しい職業をしてゐるために、公然兄弟の名乘りをしませんでしたから、ふつうふ兄のあることは私どもは一切知りませんでした。しかし、辯護士の話では、職業こそ賤しいが、精神はしつかりした人物であるといふことですし、子供もないといふことですから、子供のためにも仕合せでせう。子供が生れたといふことが世間に知れると、その子供を欲しいといつて寄越した人が、二三人ありました。山田の方へもそんな手紙が行つたさうです。御深切は感謝してゐますが、これはお斷りしました。

一口噺（影辯慶）

火災事件に關連し新妻から離婚申込まれた事務長「俺も女房に捨てられては寄邊なきの捨小舟になるワイ」

少女誘拐頻々とおきいた女房「心配ネー宅の小供も氣をつけねば、亭主に大丈夫だよお前そつくりのかぼつやだから」

日本病院 Tel. Fillmore 2004 1811 Pine St., S. F. Cal.
内科、產婦人科 櫻井菊三
小兒科、耳鼻咽喉科 春田忠藏
外科皮膚科 黑澤格三郎
電話フィルモア二〇〇四 桑港フィン街一八一一
往診、宅診 入院隨時

帝國病院 1629 Post St., S. F.
醫學博士 渡邊恭禮 入院隨意
顧問 伊津野房一郎
主任 ドクトル
桑港ポスト街一六二九 電話ウエスト七二六二

中央病院
内科、小兒科 眼科、皮膚科
血液、胃液、尿、糞便の顯微鏡的化學的檢査に應ず
桑港プッシュ街一九五六
醫學士 渡邊悅藏
電話フィルモア二八九九
診察時間 午前十時より午後八時迄 日曜午前九時より十時迄

北河醫院 1552 Buchanan St.（北米アパートメント）
元レーン病院助醫 北河慶次郎
診察時間 午前十時より午後八時迄 日曜午前九時より十時迄
電話フィルモア五二八八

桑港公認醫院開業 醫學士 井戸本保之助
スタンフォード醫科大學出身 井戸本保之助
桑港ポスト街一七七六 フィルモア七九二
桑港ポスト街一七七六 林德太郎
フィルモア四二〇九
桑港ポスト街一七三九 小川榮一
フィルモア九一〇
桑港ポスト街一五三〇 田中敏太郎
ウエスト六六四
桑港ポスト街一五六八 山本辰雄
フィルモア二二六八
桑港ポスト街一六四五 谷田部保
ウエスト五二九一
桑港ポスト街一八七七 藤田省三
ウエスト八三五〇
桑港ポスト街六四〇（五車堂二階） 木暮篤太郎
フィルモア二二六〇
桑港ポスト街一六六〇 檜垣益一
ウエスト二四八四

加州歯科醫師會

桑港公認歯科醫師

桑港ポスト街一六九〇 電話ウエスト一八六 桑港スタクトン街七五八 電話カーネー二四七六

桑港公認醫院 大久保歯科醫院 桑港サター街四〇六 スタクトン角三階 電話サター七四三六 時間午前八時より午後五時迄

桑港公認醫院 高尾鶴松

桑港公認醫院 小林產院 桑港ポスト街一五二八 電話ウエスト五七六八

桑港公認產婆 小林ちか

桑港公認產婆 倉本ひな 桑港プッシュ街一九〇七 內務省免許產婆 電話フィルモア一九〇四

桑港公認產婆 村山なみゑ 桑港ポスト街一六二四 電話フィルモア一七六一

桑港公認產婆 林イエ

英語教授 親愛なる日本人諸君の成功は實に的英語習得にあり妾は「キー」著者且十數年經驗あり懇切教授す Miss. C. RYAN, Tel. West 6125 3103 Cay St., S. F. (Near Baker.)

英語教授 初學者、新渡航者、婦人及年少者の爲に懇切教授す 桑港ポスト街一六九〇 電話ウエスト一八六 寺澤教館

新茶 荷着 特價 一斤 金二弗 送料無料 御菓子屋 御菓子司 桑港ポスト街一六九九 電話ウエスト五三六六

ランチタイム 六六 迅速 低價 用應 御喫 金廉

桑港賣藥會社 公認 發賣

通信販賣 特價大賣出し 有効無比

特製胃病の妙藥 金七十五仙
特製かぜ熱妙藥 金七十五仙
特製くだり止め妙藥 金一弗
特製皮膚病妙藥 金二弗
特製痔病の妙藥 金一弗
特製婦人病妙藥 金三弗
特製鼻のくすり 金一弗
特製頭髮養毛妙藥 金一弗
ヒューマンパワー錠 金二弗五十仙

THE S. F. BAIYAKU KAISHA (Distributed by K. S. Suzuki's Office) 1731 Buchanan St., San Francisco, Calif.

大阪藥店 郵送無料 公認調劑

滋養強壯 活力素 华井博士發見 一ケ月 一弗六十仙
有効確實 つゝあり錠 米國製劑 三週分 二弗
男女強精 精錠 百錠入一瓶 五弗 二瓶九弗 三瓶十二弗
胃腸妙藥 タラコン 散 湯 付井法發見 定價 一二〇
最新方劑 あきが妙藥 二週分 一〇〇
藥局 桑港ポスト街一五九四 電話ウエスト三四七四 多年の經驗あり日白人藥劑師により適藥を低廉に提供す OSAKA YAKUTEN 1594 Post St., S. F. Calif.

大阪大相撲

春洋丸にて着桑の大阪相撲大錦、朝日山一行四十五名

當る二十四、五、六の三日間

毎日午後正六時より

ドリームランド ホール

スタイナー街（ポスト街とサター街の間）

に於て興行可致候間御來觀の程願上候

本部 桑港スタクトン街 加州ホテル內

桑港興行會社支配人 奧定吉 中野作太郎

ワシントン州方面の巡業中止

◎半期棚卸

大割引＝大賣出し

◉一割より三割

▲七月一日より向一ケ月間▼

男女洋服卸小賣 雜貨輸出入 ふく組

本店 桑港ポスト街一八六三 電話ウエスト三四四
支店 同ナウスパーク一四〇 同 サター三六一八
同 横濱市本町五丁目九〇番地